

第4期中期目標期間（令和7事業年度）に係る業務の実績に関する報告書

令和8年6月

長崎県公立大学法人

目次

項 目	頁
I 大学の教育研究の質の向上及び地域貢献	
1 教育に関する目標	1
2 研究に関する目標	25
3 地域貢献に関する目標	28
II 業務運営の改善及び効率化	
1 組織運営の改善に関する目標	32
2 人事の適正化に関する目標	36
III 財務内容の改善	
1 財務基盤の強化及び効率的な運営に関する目標	38

項 目	頁
IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供	
1 評価の充実に関する目標	39
2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標	41
V その他業務運営	42

○各中期目標の達成状況

I 大学の教育研究の質の向上及び地域貢献に関する目標
1 教育に関する目標

中期目標	(1) 実践的教育のさらなる推進 県の地域的・歴史的特性を生かした「しまなび」プログラムや地域の企業・自治体等と連携した企業インターンシップといった実践的な教育を行い、地域課題の解決に繋がる取組を提案することにより、地域産業の発展と持続可能な地域社会形成を担うリーダーとなる人材や地域等の中核を担う課題解決能力を備えた行政人材を育成する。
	(2) 教育の質の向上と保証 学生の視点に立った教育や他大学、産業界などと連携した教育の実施、さらには時代の変化に応じた迅速かつ柔軟な教育プログラムの編成に努めるとともに、学生の学修成果に関する情報の恒常的な収集・分析や可視化などを図り、教育の質の向上と保証に取り組む。
	(3) 専門的知識・技術の修得及び外国語運用能力の向上並びにそれを下支えする基盤的教育の充実 各学部学科の特色や社会のニーズに即した専門的知識・技術や外国語運用能力をさらに向上させるとともに、数理・データサイエンス・A I 教育を全学的に行い、デジタル社会で活躍するために必要な知識・技術を確実に修得させる。
	(4) 大学院課程 高度な専門知識・技術等を修得させるとともに、領域横断的な専門応用能力を涵養する人材の育成を目指し、学生や社会人など多様な分野からの受け入れを推進する。
	(5) 学生支援と県内就職向上のための取組の推進 学修環境の整備をさらに充実し、安全・安心な学生生活を送れるよう、多様な学生に寄り添った修学支援や心身の健康管理や経済的支援などの生活支援を実施する。 また、教員と就職課が連携・協力し、学生の希望する進路の実現に向け、進路指導や就職活動の支援を強化することにより、高い就職率を実現するとともに、県内ニーズを捉えた人材育成を行い、県内定着を推進する。
	(6) 外国人留学生の受入れ・日本人学生等の海外への派遣及び国際交流の推進 外国人留学生の受入れや日本人学生の派遣留学を積極的に行う等により、学生を様々な価値観に触れさせ、国際感覚を持った多様な人材を養成する。
	(7) 入試の適正な実施及び県内高校生の受入促進 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に沿った入学者選抜を適正に実施するため、入試業務・運営に関するチェック体制のさらなる強化を図る。 また、県内の優秀な学生を入学させるための学校推薦型選抜等の見直しや授業等を通じて県内高校との連携を図り、高大接続の強化を進めるなど、入学促進に積極的に取り組む。

中期計画		目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等												
(1) 実践的教育のさらなる推進 【1】地域産業の発展と持続可能な地域社会形成を担うリーダーとなる人材を育成するため、地域に根差した「しまなび」プログラムの実施により学生の自律的な学びをさらに進展させるとともに、その成果を踏まえ、本学の特色ある初年次教育の重要な一部として、全学においてプログラムの不断の改善に取り組む。 また、プログラムにおいてSDGsを踏まえた教育内容を充実させる。	①全学的にプログラムの点検を行う体制を整備し、毎年度点検を行うとともに、必要に応じて見直しを行う。		＜達成水準の取組状況＞ ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table><tr><td>R 5 年度</td><td>R 6 年度</td><td>R 7 年度</td><td>R 8 年度</td><td>R 9 年度</td><td>R 1 0 年度</td></tr><tr><td>・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善</td><td>・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善</td><td>・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善</td><td>・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善</td><td>・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善</td><td>・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善</td></tr></table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 （令和５年度実績） ・フィールドワークについては、コロナ禍以前の行程に戻し実施したが、報告方法はより広く地域への公開がしやすいということからコロナ禍に導入したオンデマンド方式で行うなど良かった点を活かしながら実施した。プログラム実施後は、全学教務委員会を中心に課題整理を行い、物価高騰の影響に伴う経費面やコロナ後の受入先の状況を踏まえて持続可能なプログラムとするため令和６年度以降は行程を短縮する方針となった。 なお、令和６年度は学生が企画・提案した宇久島特産品開発について、観光協会が商品化を決定し実現に向けて進めることとなった。 （令和６年度実績） ・フィールドワークについては、令和５年度の見直し方針に基づき行程を１日短縮し集中的に活動を実施した。プログラム実施後、現状の課題や、よりPBLとしての教育効果を高める方法を検討し、令和７年度入学生より必修区分と配当年次の変更を行った。 必修区分：各離島地域について学ぶ座学科目である「長崎のしまに学ぶ」は引き続き必修科目として実施し、各離島の課題へ取り組むフィールドワーク科目である「しまのフィールドワーク」は選択科目とした。 配当年次：「長崎のしまに学ぶ」は、引き続き１年次配当とするが前期開講から後期開講とし、「しまのフィールドワーク」は、基本的な知識やスキルを習得したうえで取り組めるよう２年次配当とした。 （令和７年度実績） ・講義科目「長崎のしまに学ぶ」については、受講者が、すべての島の地域の現状や課題に関する講義を受け、各地域の課題についてより深く学んだうえで、希望地域の選択ができる形式で実施した。さらに受講者が各地域の課題に主体的に取組み、気づきを得ることを目的として受講者を３～４のグループに分け、ワールドカフェ形式（※）の講義を実施した。 ・フィールドワークについては、カリキュラムの改正により令和７年度の実施はなかった。 （※）ワールドカフェ：カフェのようなリラックスした雰囲気の中で少人数のグループが自由に対話を重ね、席替えを繰返すことで参加者全員の知識や「気づき」を共有し、集合知を生み出す対話手法 （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度												
・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善	・「しまなび」プログラムの点検の実施及び改善												

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等												
	②プログラムにおいて、SDGsの項目に関連した内容を取り入れるとともに、毎年度その取組を取りまとめ、公開する。		●達成水準② ◆各年度の取組の目安 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開</td><td>・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開</td><td>・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開</td><td>・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開</td><td>・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開</td><td>・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開</td></tr> </tbody> </table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 （令和５年度実績） ・講義科目でSDGsについて学び、各グループのフィールドワークと該当するSDGs項目を一覧にし大学ホームページにて公開した。 （令和６年度実績） ・講義科目でSDGsについて学び、各グループのフィールドワークと該当するSDGs項目を一覧にし大学ホームページにて公開した。 （令和７年度実績） ・講義科目において、SDGsの項目に関連した内容を取り入れながら、学生が各自で地域課題への改善案などをまとめた。令和7年度については、配当年次のカリキュラム改正によりフィールドワークの実施がなかったため、取組みの公開については令和8年度以降改めて対応することとした。 （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 《中期計画の達成状況》 【途中評価（４年目終了時）】 ＜令和５～８年度の実績の概要＞ ・ ＜令和９～１０年度の取組予定・中期計画の達成見込＞ ・ 【期間評価（６年目終了時）】 ＜令和５～１０年度の実績の概要＞ ・	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度												
・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開	・「しまなび」プログラムにSDGsの項目に関連した内容を取り入れ、その取組を公開												
【２】地域産業の発展と持続可能な地域社会形成を担うリーダーとなる人材を育成するため、「企業インターンシップ」などの実践的教育において、地域社会等のニーズに即した取り組みを行い、その課題解決を目指す。	①実践的教育の優れた取組について、毎年度全学的に共有するとともに、地域への公開を行う。		《達成水準の取組状況》 ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・取組について、全学的に共有、地域への公開</td><td>・取組について、全学的に共有、地域への公開</td><td>・取組について、全学的に共有、地域への公開</td><td>・取組について、全学的に共有、地域への公開</td><td>・取組について、全学的に共有、地域への公開</td><td>・取組について、全学的に共有、地域への公開</td></tr> </tbody> </table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 （令和５年度実績） ・全学教務委員会にて各学科から報告のあった取り組みについて共有を行った。また、各学科において受入企業の関係者を招いた報告会や、大学ホームページへ取組の掲載、報告書の配布などにより取組みを公開した。 （令和６年度実績） ・各学科において企業インターンシップ等の実践的教育を実施し、受入企業の関係者を招いた報告会や、報告資料の配布を行うことで活動の共有を行った。また、大学ホームページの「実践的学び」のページに実践的教育活動関連の記事を充実させることで、地域社会等のニーズに即した取組や課題解決に向けた取組等を公開した。 （令和７年度実績） ・各学科において企業インターンシップ等の実践的教育を実施し、受入企業の関係者を招いた報告会や、報告資料の配布を行うことで活動の共有を行った。また、大学ホームページの「実践的学び」のページに実践的教育活動関連の記事を充実させることで、地域社会等のニーズに即した取組や課題解決に向けた取組等を公開した。 （令和８年度実績） ・ ※実績報告書に実施した地域社会等のニーズに即した教育について、どのように全学的に共有、地域へ公開したかを記載	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・取組について、全学的に共有、地域への公開	・取組について、全学的に共有、地域への公開	・取組について、全学的に共有、地域への公開	・取組について、全学的に共有、地域への公開	・取組について、全学的に共有、地域への公開	・取組について、全学的に共有、地域への公開		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度												
・取組について、全学的に共有、地域への公開	・取組について、全学的に共有、地域への公開	・取組について、全学的に共有、地域への公開	・取組について、全学的に共有、地域への公開	・取組について、全学的に共有、地域への公開	・取組について、全学的に共有、地域への公開												

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（ ）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等												
			（令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 《中期計画の達成状況》 【途中評価（４年目終了時）】 ＜令和５～８年度の実績の概要＞ ・ ＜令和９～１０年度の取組予定・中期計画の達成見込＞ ・ 【期間評価（６年目終了時）】 ＜令和５～１０年度の実績の概要＞ ・														
（２）教育の質の向上と保証 【３】ＩＲ機能の充実により、教学マネジメントに資するデータを随時収集・分析するとともに、その結果を学生や教職員に適宜フィードバックするための体制を整備する。 また、分析結果等を踏まえ、教育内容の改善や研修を実施するほか、必要に応じ他大学、産業界等と連携した教育を取り入れる。	①本学の教育内容を自ら点検・評価し、改善を行うなど、内部質保証の体制を令和５年度中に整備し、令和６年度以降、学生の学修成果等に関する情報について毎年度、全学に向けたフィードバックを行う。また、学修成果の可視化のため、令和７年度までにディプロマ・サプリメントの制度設計を行い、令和８年度から導入する。		《達成水準の取組状況》 ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table><tr><th>R５年度</th><th>R６年度</th><th>R７年度</th><th>R８年度</th><th>R９年度</th><th>R１０年度</th></tr><tr><td>・内部質保証体制の整備</td><td>・全学に向けたフィードバックの実施</td><td>・全学に向けたフィードバックの実施 ・ディプロマ・サプリメントの制度設計</td><td>・全学に向けたフィードバックの実施 ・ディプロマ・サプリメントの制度の導入</td><td>・全学に向けたフィードバックの実施</td><td>・全学に向けたフィードバックの実施</td></tr></table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 （令和５年度実績） ・教育開発センターにて情報収集、分析、教育改善に関するレポート作成、全学教務委員会にて分析結果の評価、取りまとめを行うという既存の組織体制の役割と分担を明確にし内部質保証体制の整備を行った。また、個人情報保護やセキュリティポリシーに基づき教学情報の取扱いを明確にするため、教学情報の取扱要領を制定した。 （令和６年度実績） ・教育開発センターにて授業評価アンケートやALCS学修行動比較調査、卒業・入学時アンケート等の実施、分析を行い、全学教務委員会へ報告することで、全学に向けてフィードバックを行った。なお、これらの結果分析やカリキュラムマップを活用したディプロマポリシー達成状況のシミュレーション等を実施し学修成果の可視化の方策についても検討を進めている。 （令和７年度実績） ・教育開発センターにて授業評価アンケートやALCS学修行動比較調査、卒業時アンケート等を実施し、結果の分析を含めた活動報告書を取りまとめて公表し、全学に向けてフィードバックを行った。また、学生支援システムの更新において「学生カルテ」機能を追加整備し、成績評価の分布やGPA履歴等の学修成果について視覚的な確認を可能としたが、令和７年度は3ポリシーの見直しがあったため、ディプロマサプリメントの制度設計については、令和8年度以降に行うこととした。 （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。	R５年度	R６年度	R７年度	R８年度	R９年度	R１０年度	・内部質保証体制の整備	・全学に向けたフィードバックの実施	・全学に向けたフィードバックの実施 ・ディプロマ・サプリメントの制度設計	・全学に向けたフィードバックの実施 ・ディプロマ・サプリメントの制度の導入	・全学に向けたフィードバックの実施	・全学に向けたフィードバックの実施		
R５年度	R６年度	R７年度	R８年度	R９年度	R１０年度												
・内部質保証体制の整備	・全学に向けたフィードバックの実施	・全学に向けたフィードバックの実施 ・ディプロマ・サプリメントの制度設計	・全学に向けたフィードバックの実施 ・ディプロマ・サプリメントの制度の導入	・全学に向けたフィードバックの実施	・全学に向けたフィードバックの実施												

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																								
	②教員と学生との本学の教育に関する座談会について、令和５年度に検討を行い、令和６年度から実施する。		●達成水準② ◆各年度の取組の目安 <table border="1"> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td>・座談会の実施方法等の検討</td><td>・座談会の実施</td><td>・座談会の実施</td><td>・座談会の実施</td><td>・座談会の実施</td><td>・座談会の実施</td></tr> </table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 （令和５年度実績） ・座談会について規模や実施方法を検討し、学生14名、教員5名で試行的に開催し、取組みについて大学ホームページで公表を行った。実施結果等について、今後分析を行い令和６年度以降の本格実施に向けて調整を行う。 （令和６年度実績） ・昨年度の試行での課題を整理したうえで、学生20名、教員5名の対面方式で実施した。令和6年度は新たな試みとして座談会の前後にキャンパスツアー（シーボルト校）とランチミーティングを導入し、学生間の交流をより深められるプログラムとした。座談会では、4つのグループに分かれテーマごとに話し合ったことを全体で共有し、意見交換を行った。終了後のアンケートで得られた意見をもとによりよい座談会のあり方について検討を重ねていく。 （令和７年度実績） ・令和7年度は公募及び教育開発センター委員の推薦により選定された学生20名と教員8名が参加し、佐世保校において対面形式で開催した。昨年度同様にキャンパスツアーとランチミーティングを実施することで、教職員、学生間の交流がより深まるプログラムとした。当日は、4つのトークテーマについてグループに分かれて意見交換を行い、相互理解を深める機会となった。また、座談会での意見を踏まえ令和8年度の教養セミナーのテキストの改訂を行うなど、教育内容の改善に繋がった。 （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 ●達成水準③ ◆各年度の取組の目安 <table border="1"> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td>・授業アンケートや学生調査の実施及び教育内容の改善、シラバスへの反映</td><td>・授業アンケートや学生調査の実施及び教育内容の改善、シラバスへの反映</td><td>・授業アンケートや学生調査の実施及び教育内容の改善、シラバスへの反映</td><td>・授業アンケートや学生調査の実施及び教育内容の改善、シラバスへの反映</td><td>・授業アンケートや学生調査の実施及び教育内容の改善、シラバスへの反映</td><td>・授業アンケートや学生調査の実施及び教育内容の改善、シラバスへの反映</td></tr> </table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 （令和５年度実績） ・授業評価アンケートや学生調査を継続的に実施し、各教員において半期ごとに授業評価アンケート結果に基づいて点検を行い、必要に応じて改善及びシラバスへの反映を行った。なお、令和５年度より通知方法やリマインドの方法を見直し、アンケートの回収率向上を図った。 （令和６年度実績） ・授業評価アンケートや学生調査を継続的に実施し、各教員において半期ごとに授業評価アンケート結果に基づいて点検を行い、必要に応じてシラバスへの反映や授業内容の改善を行った。また、学科FD研修会において学生のモチベーション向上に向けて各教員の考え方や取組みについての意見交換の実施や、カリキュラムの変更となった部分の目的や目標、内容を共有しより教育内容の充実に向けた取組を行った。 （令和７年度実績） ・授業評価アンケートや学生調査を継続的に実施し、各教員において半期ごとに授業評価アンケート結果に基づいて点検を行い、必要に応じてシラバスへの反映や授業内容の改善を行った。また、全学FD研修会として教育開発センターが提供する教育研究関連動画（260動画）から自身で必要な動画を視聴する「自己研鑽FD」と日本におけるケース・メソッドの第一人者である外部講師を招聘した研修会を実施することで、教員間での意見交換、自身の教育内容の見直しや改善等につなげた。 （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・座談会の実施方法等の検討	・座談会の実施	・座談会の実施	・座談会の実施	・座談会の実施	・座談会の実施	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・授業アンケートや学生調査の実施及び教育内容の改善、シラバスへの反映	・授業アンケートや学生調査の実施及び教育内容の改善、シラバスへの反映	・授業アンケートや学生調査の実施及び教育内容の改善、シラバスへの反映	・授業アンケートや学生調査の実施及び教育内容の改善、シラバスへの反映	・授業アンケートや学生調査の実施及び教育内容の改善、シラバスへの反映	・授業アンケートや学生調査の実施及び教育内容の改善、シラバスへの反映		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																								
・座談会の実施方法等の検討	・座談会の実施	・座談会の実施	・座談会の実施	・座談会の実施	・座談会の実施																								
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																								
・授業アンケートや学生調査の実施及び教育内容の改善、シラバスへの反映	・授業アンケートや学生調査の実施及び教育内容の改善、シラバスへの反映	・授業アンケートや学生調査の実施及び教育内容の改善、シラバスへの反映	・授業アンケートや学生調査の実施及び教育内容の改善、シラバスへの反映	・授業アンケートや学生調査の実施及び教育内容の改善、シラバスへの反映	・授業アンケートや学生調査の実施及び教育内容の改善、シラバスへの反映																								
	③授業評価アンケートや学生調査を毎年度継続的に実施する。授業評価アンケートの結果に基づき、毎年度教育内容の点検を行うとともに、必要に応じシラバスへ反映させる。																												

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																																				
	④全学、学部、学科、専攻ごとのFD研修会を実施する。FD研修会終了時のアンケートや授業評価における自己点検報告書などを踏まえ、毎年度本学の教育改善に関するレポートを年に1回作成して全学で共有し、教育の質向上に役立てる。 ・全学FD研修会専任教員受講率80%（毎年度） ⑤教育の質向上のため、他大学や産業界等と連携した教育を取り入れる。		●達成水準④ ◆各年度の取組の目安 <table> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td>80%</td><td>80%</td><td>80%</td><td>80%</td><td>80%</td><td>80%</td></tr> </table> ◆各年度の実績 <table> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td>92.9%</td><td>98.0%</td><td>100%</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> 【途中評価（4年目終了時）】 【期間評価（6年目終了時）】 <補足> ※特筆すべき事項がある場合や達成できない場合に記載すること。 ●達成水準⑤ ◆各年度の取組の目安 <table> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td>・他大学や産業界と連携した教育の取組状況の調査の実施</td><td>・他大学や産業界と連携した教育への取組及び必要に応じた改善</td><td>・他大学や産業界と連携した教育への取組及び必要に応じた改善</td><td>・他大学や産業界と連携した教育への取組及び必要に応じた改善</td><td>・他大学や産業界と連携した教育への取組及び必要に応じた改善</td><td>・他大学や産業界と連携した教育への取組及び必要に応じた改善</td></tr> </table> ◆各年度の実績 【途中評価（4年目終了時）】 【期間評価（6年目終了時）】 （令和5年度実績） ・他大学や産業界と連携した教育の取組状況の調査を全学的に実施した。令和6年度以降、各学科の連携状況や傾向等を分析し教育の質向上につながる活用方法等を検討していく。 （令和6年度実績） ・他大学や産業界と連携した教育の取組状況の調査を全学的に実施した。各学科において、他大学や産業界との連携した教育は一定数取組んでいるが、更なる教育の質の向上のためにPBLの充実化など引き続き検討を進めていく。 （令和7年度実績） ・他大学や産業界と連携した教育の取組状況の調査を全学的に実施した。その結果を産業別・エリア別にデータベース化することで、今後の教育活動や研究活動において新たな連携先を探す際の活用が可能となるように整理した。 （令和8年度実績） ・ （令和9年度実績） ・ （令和10年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 《中期計画の達成状況》 【途中評価（4年目終了時）】 <令和5～8年度の実績の概要> ・ <令和9～10年度の取組予定・中期計画の達成見込> ・ 【期間評価（6年目終了時）】 <令和5～10年度の実績の概要> ・	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	80%	80%	80%	80%	80%	80%	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	92.9%	98.0%	100%				R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・他大学や産業界と連携した教育の取組状況の調査の実施	・他大学や産業界と連携した教育への取組及び必要に応じた改善	・他大学や産業界と連携した教育への取組及び必要に応じた改善	・他大学や産業界と連携した教育への取組及び必要に応じた改善	・他大学や産業界と連携した教育への取組及び必要に応じた改善	・他大学や産業界と連携した教育への取組及び必要に応じた改善		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																				
80%	80%	80%	80%	80%	80%																																				
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																				
92.9%	98.0%	100%																																							
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																				
・他大学や産業界と連携した教育の取組状況の調査の実施	・他大学や産業界と連携した教育への取組及び必要に応じた改善	・他大学や産業界と連携した教育への取組及び必要に応じた改善	・他大学や産業界と連携した教育への取組及び必要に応じた改善	・他大学や産業界と連携した教育への取組及び必要に応じた改善	・他大学や産業界と連携した教育への取組及び必要に応じた改善																																				

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																																																												
（３）専門的知識・技術の修得及び外国語運用能力の向上並びにそれを下支える基盤的教育の充実 【４】学生に卒業要件を早期に達成させ、必要な専門的知識や技術、外国語運用能力を修得させる。また、毎年度の達成状況及び支援状況を検証し、必要に応じて支援方法の改善を行う。 さらなる学業意欲がある学生に対しては高い目標を定め、その達成を目指す。	①教職員等による学習支援を行い、次の要件を３年修了時まで９割以上の学生に修得させる。 ア 経営学部 （ア）経営学科 日経TEST430点、日商簿記検定２級、FP技能検定２級、リテールマーケティング（販売士）検定２級のいずれかを修得させる。 （イ）国際経営学科 TOEIC730点を修得させる。 イ 地域創造学部 （ウ）公共政策学科 日経TEST430点、ニュース時事能力検定２級のいずれかを修得させる。		《達成水準の取組状況》 ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td>9割以上</td><td>9割以上</td><td>9割以上</td><td>9割以上</td><td>9割以上</td><td>9割以上</td></tr> </table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 ７学科平均 <table> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td>69.0%</td><td>72.7%</td><td>67.7%</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> ＜補足（令和６年度）＞ 各学科、学生との面談を継続的かつ丁寧に行い、一人ひとりの受験時期や目指す資格を確認し学科内で共有することで寄り添ったサポートを行った。また、時事問題に強くなることや新聞を読む意義を伝える機会を設けたり、段階的かつ継続的に学習できるカリキュラムに変更するなど学生のモチベーション維持に向けて改善を行った。 ア 経営学部 （ア）経営学科 <table> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td>50.0%</td><td>57.6%</td><td>68.1%</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> ＜補足（令和５年度）＞ 各ゼミごとに進級・卒業要件面談を実施し、早期受験指導やオンデマンドによる特別補講など早期資格取得に向けての取組を行った。今後は、より具体的な受験計画を面談時に行い、早期取得への注意喚起を行っていく。 ＜補足（令和６年度）＞ 各年次で進級・卒業要件面談を実施し、結果を管理簿に入れ、学科会議の際に資格取得状況及び次回試験の申込状況、試験の結果を報告することで学科全体での管理と情報共有を徹底した。また、オンデマンドで日経TEST対策特別補講を実施し学生の学習支援を行った。令和７年度のリテールマーケティング試験については、学生がより受験しやすい時期に見直しを行った。 ＜補足（令和７年度）＞ 各ゼミで進級・卒業要件面談を実施し、各年次ごとの管理簿で全体の管理を徹底した。学科会議の際には資格取得状況及び次回試験の申込状況、試験の結果を報告し情報共有を行うとともに、管理簿に記載の取得時期に向けて申込みが確認できなかった場合、ゼミの教員から指導を行った。また、オンデマンドで日経TEST対策特別補講を実施し、学生の学習支援を行った。 ※特筆すべき事項がある場合や達成できない場合に記載すること。 ア 経営学部 （イ）国際経営学科 <table> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td>93.8%</td><td>96.2%</td><td>83.9%</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> ＜補足（令和７年度）＞ 年７回実施しているTOEIC/IP試験ごとに試験結果を学科全体で共有し、ゼミの教員が個別面談を行い、その結果を学科会議でフィードバックすることで学生の状況の共有を徹底した。また、委託業者によるTOEIC補習や英語教員による試験対策勉強会を実施し学生の学習支援を行った。学生の傾向としてリーディングが弱いことが分かってきたため、補習等はこの領域の強化を行っていくこととした。 ※特筆すべき事項がある場合や達成できない場合に記載すること。 イ 地域創造学部 （ウ）公共政策学科 <table> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td>88.0%</td><td>76.3%</td><td>73.7%</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> ＜補足（令和５年度）＞ 学科ガイダンスにて早期取得について呼びかけを行うとともに、各ゼミで試験結果を確認し指導を行った。また、ゼミや授業時に「資格取得奨励金制度」などを周知し受験を促した。引き続きゼミやガイダンスを通して早期取得の呼びかけや学生指導を行っていく。 ＜補足（令和６年度）＞ ニュース時事能力検定協会の担当者を招聘し、ニュース検定に関するガイダンスを実施し、時事問題に強くなること、新聞を読む意義等について学生の動機付けを行った。また、各ゼミで試験結果を踏まえ学生相談と指導を実施した。引き続きゼミを通して早期取得の呼びかけや学生指導を行っていく。 ＜補足（令和７年度）＞ ニュース時事能力検定協会の担当者を招聘し、ニュース検定に関するガイダンスを実施し、時事問題に強くなること、新聞を読む意義等について学生の動機付けを行った。また、各ゼミで試験結果を踏まえ学生相談と指導を実施した。 ※特筆すべき事項がある場合や達成できない場合に記載すること。	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	9割以上	9割以上	9割以上	9割以上	9割以上	9割以上	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	69.0%	72.7%	67.7%				R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	50.0%	57.6%	68.1%				R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	93.8%	96.2%	83.9%				R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	88.0%	76.3%	73.7%					
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																												
9割以上	9割以上	9割以上	9割以上	9割以上	9割以上																																																												
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																												
69.0%	72.7%	67.7%																																																															
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																												
50.0%	57.6%	68.1%																																																															
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																												
93.8%	96.2%	83.9%																																																															
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																												
88.0%	76.3%	73.7%																																																															

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等												
	（エ）実践経済学科 日経TEST430点を修得させる。		イ 地域創造学部（エ）実践経済学科 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>72.9%</td><td>78.5%</td><td>61.1%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <補足（令和5年度）> 4年生の未達成者向けに実施していたオンラインの学習支援を3年生まで範囲を広げたほか、1・2年次配当の講義を開放し3年生以上が自由に聴講し自己学習に活かせるように対応した。また、試験の直前には勉強会を開催し早期取得に向けて取組みを行ったが達成には至らなかった。今後は、日経TESTの関連科目を段階的かつ継続的にできるようカリキュラムの見直しを含めて体制の検討をしていく。 <補足（令和6年度）> オンラインの学習支援の実施や、1・2年次配当の講義を開放し3年生以上が自由に聴講し自己学習に活かせるように対応した。また、試験の直前には勉強会を開催し早期取得に向けた取組を行った。また、学生が段階的かつ継続的に日経TESTの関連科目の学習ができる環境を提供しモチベーションを維持できるようカリキュラムの見直しを行い、令和7年度から関連科目の開講時期を変更した。 <補足（令和7年度）> 日経TESTの結果を共有し、ゼミ単位で資格取得に向けた指導を実施した。令和7年度入学生より関連科目の開講時期を変更し、学生が段階的かつ継続的に学習ができる環境を整備した。さらに今年度は「新聞で学ぶ経済Ⅰ」で学生に一押し記事のプレゼンや質疑に加え、グループワークを取り入れることで学生のアクティブラーニングの機会を増やし知識の定着化を図った。さらに講義の中で本試験と同じ出題形式の合同テストを実施することで理解度の確認や本試験に慣れる練習を行った。 ※特筆すべき事項がある場合や達成できない場合に記載すること。	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	72.9%	78.5%	61.1%					
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度												
72.9%	78.5%	61.1%															
	ウ 国際社会学部 （オ）国際社会学科 【英語選択者】 TOEIC730点を修得させる。 【中国語選択者】 中国語検定2級を修得させる。		ウ 国際社会学部（オ）国際社会学科 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>45.8%</td><td>58.5%</td><td>48.4%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <補足（令和5年度）> 各ゼミで進級・卒業に必要な単位に漏れが生じないよう指導するとともに、英語特別講座の実施、eラーニング教材の活用、TOEIC特別対策などの取組を行った。また、オンラインIPテストを追加し受験機会を増やしたが達成には至らなかった。要因として、現在のカリキュラムが学年が上がるにつれ自己学習頼りな体制となっていることが考えられるため、早期受験を促す対応を行いながら継続的に学習する時間を確保できる履修体制となるようカリキュラムの見直しを含めて検討していく。 <補足（令和6年度）> 学科ガイダンスにて卒業要件の早期取得について呼びかけるとともに、各ゼミで積極的に受験するよう指導を行った。学科FD研修会では、英語指導を委託している業者と学科の教員で現状の課題や今後の学生指導の方向性など卒業要件取得の状況改善に向けた協議を実施した。 <補足（令和7年度）> ゼミ単位で面談や指導を行うとともに、TOEIC対策講座を年4回開催し、学生の学修支援を行った。英語指導委託業者との検証にて、学生たちの傾向としてリーディングが弱いことが指摘されており、リーディング強化を中心に対策を行っている。 ※特筆すべき事項がある場合や達成できない場合に記載すること。	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	45.8%	58.5%	48.4%					
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度												
45.8%	58.5%	48.4%															
	エ 情報システム学部 （カ）情報システム学科 基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験、Webデザイナー検定エキスパート、CGクリエイター検定エキスパート、CGエンジニア検定エキスパート、画像処理エンジニア検定エキスパートのいずれかを修得させる。		エ 情報システム学部（カ）情報システム学科 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>86.8%</td><td>63.6%</td><td>72.1%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <補足（令和5年度）> 学科教員及び学外講師による対策講座や個別支援、問題集の配布などを継続的に行ったが、達成には至らなかった。要因として、令和5年度から基本情報技術者試験が通年受験となったことで卒業要件資格の選択や受験時期の決定が遅れたことが考えられるため、学生の受験する資格の選択や受験予定日の確認と促進をより強化していく。 <補足（令和6年度）> 年度当初の学科ガイダンスにて、全学年に「資格取得ロードマップ」を配付し、選択する卒業要件資格に応じて受験・合格までの時期設定を計画させた。また、学科教員及び学外講師による対策講座や個別支援、問題集の配布などを継続的に行ったが、令和5年度から情報技術者試験がCBT方式になったことによる受験機会の遅延の影響が大きく出る結果となった。今後は、3年次生を中心に支援、指導を行ってきたものについて、1・2年次からの早期支援体制について検討していく。 <補足（令和7年度）> 1年次の年度当初に「資格取得ロードマップ」を配付し、4年間の資格取得スケジュールを明確にすることで早期に取得することの意識付けを行った。また、学科教員及び学外講師による対策講座や問題集の無料配付、Web模試の実施など継続的な支援を行った。特にWeb模試受験者については、受験後の活用状況（得点、解説動画の利用、本試験の受験）についての報告を義務化することで、学生の状況把握に努めた。CBT方式による受験機会の遅延の影響はまだあるが、学生への学習支援と確実な受験の把握を徹底していくこととした。 ※特筆すべき事項がある場合や達成できない場合に記載すること。	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	86.8%	63.6%	72.1%					
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度												
86.8%	63.6%	72.1%															

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																																																												
	（キ）情報セキュリティ学科 情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験のいずれかを修得させる。 ②さらなる学業意欲がある学生に対して、①の要件を超える高い目標を設定して組織的に指導・支援を行い、その達成を目指す。ただし、看護栄養学部においては、看護師または管理栄養士の国家試験合格率100%を目標に設定する。 ア 経営学部 （ア）経営学科が掲げる高い目標 ○経営に関する基礎理論と企業等が活動する社会の仕組みについて基本的な知識を深める。2年次、3年次の実践科目において、地域経営体が抱える課題に対する解決策、地元での起業につながる新規ビジネスプランを提案させる。このようにして実践力を身に付けさせ、地域経営体の発展につながる提案型の卒業論文を提出する学生数が5名以上となることを目指す。 ○卒業年次までに学生のうち1割以上が卒業要件の上位レベル(日商簿記検定1級、全経簿記能力検定上級、リテールマーケティング（販売士）検定1級、日経TEST520点のいずれか)に到達できるよう組織的に指導・支援し、達成を目指す。		エ 情報システム学部 （キ）情報セキュリティ学科 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>67.1%</td><td>81.8%</td><td>70.9%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ＜補足（令和5年度）＞ 模擬試験や個別支援などを継続的に行った。令和5年度の3年次生は学生数が倍増した学年であることも影響している可能性がある（合格者の実数は令和4年度の38名から53名に増加している）。今後は、学科の指導・支援体制の一層の充実化を図るとともに、学科ガイダンスにより学生に対して早期取得の意義を認識させ取得の動機付けを強化していく。 ＜補足（令和6年度）＞ 学科ガイダンスにて、卒業要件の早期取得の意義を周知徹底し、各ゼミにおいても未取得の学生に対してフォローを実施した。令和5年度から3年次の学生が倍増となったことによる影響があったが、学科での指導・支援体制が少しずつ構築できてきたことで改善につなげることができた。今後は、さらに体制構築を確実なものとし、学生のフォローの充実化を図る。 ＜補足（令和7年度）＞ 学科ガイダンスにて、卒業要件の早期取得の意義を周知した。各ゼミにおいても未取得の学生に対してフォローを実施するとともに、Web模試を年間で4回実施するなどの支援を行った。 ※特筆すべき事項がある場合や達成できない場合に記載すること。 ●達成水準② ア 経営学部 （ア）経営学科が掲げる高い目標 ◆各年度の取組の目安 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>・地域経営体の発展につながる提案型の卒業論文の提出〔5名以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕</td><td>・地域経営体の発展につながる提案型の卒業論文の提出〔5名以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕</td><td>・地域経営体の発展につながる提案型の卒業論文の提出〔5名以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕</td><td>・地域経営体の発展につながる提案型の卒業論文の提出〔5名以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕</td><td>・地域経営体の発展につながる提案型の卒業論文の提出〔5名以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕</td><td>・地域経営体の発展につながる提案型の卒業論文の提出〔5名以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕</td></tr></table> ◆各年度の実績 【途中評価（4年目終了時）】 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>1名</td><td>5名</td><td>8名</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>7.4%</td><td>6.9%</td><td>6.3%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 【期間評価（6年目終了時）】 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>1名</td><td>5名</td><td>8名</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>7.4%</td><td>6.9%</td><td>6.3%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 地域経営体の発展につながる提案型の卒業論文の提出 卒業要件の上位レベル到達 （令和5年度実績） ・地域提案型の卒業論文について、演習時に取組みを促し適格基準を満たすよう指導を行った。 ・上位レベルの資格取得について、教養セミナーや授業時、ゼミで個別面談を行い上位レベルを目指すよう指導するとともに、資格の取得状況を学科全体で共有、進捗管理することで学科全体での指導に繋がった。 （令和6年度実績） ・地域提案型の卒業論文について、演習時に取組みを促し適格基準を満たすよう指導を行った。また、「地域提案型卒業論文に関する目標達成に向けて」をテーマとした学科FD研修会を実施し、提案内容と提案の根拠を意識した指導について共有することで完成度の高い卒業論文を目指した。 ・上位レベルの資格取得について、教養セミナーや授業時、ゼミで個別面談を行い上位レベルを目指すよう指導するとともに、資格の取得状況を学科全体で共有、進捗管理することで学科全体での指導に繋がった。 （令和7年度実績） ・地域提案型の卒業論文について、演習時に取組みを促し適格基準を満たすよう指導を行った。なお、8名のうち4名は「地域実践Ⅱ」を履修した学生であり、演習科目で身に付けた実践力や提案力が確実に定着してきている。 ・上位レベルの資格取得について、教養セミナーや授業時、ゼミで個別面談を行い上位レベルを目指すよう指導するとともに、資格の取得状況を学科全体で共有、進捗管理することで学科全体での指導に繋がった。 ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	67.1%	81.8%	70.9%				R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・地域経営体の発展につながる提案型の卒業論文の提出〔5名以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・地域経営体の発展につながる提案型の卒業論文の提出〔5名以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・地域経営体の発展につながる提案型の卒業論文の提出〔5名以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・地域経営体の発展につながる提案型の卒業論文の提出〔5名以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・地域経営体の発展につながる提案型の卒業論文の提出〔5名以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・地域経営体の発展につながる提案型の卒業論文の提出〔5名以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	1名	5名	8名				7.4%	6.9%	6.3%				R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	1名	5名	8名				7.4%	6.9%	6.3%					
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																												
67.1%	81.8%	70.9%																																																															
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																												
・地域経営体の発展につながる提案型の卒業論文の提出〔5名以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・地域経営体の発展につながる提案型の卒業論文の提出〔5名以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・地域経営体の発展につながる提案型の卒業論文の提出〔5名以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・地域経営体の発展につながる提案型の卒業論文の提出〔5名以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・地域経営体の発展につながる提案型の卒業論文の提出〔5名以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・地域経営体の発展につながる提案型の卒業論文の提出〔5名以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕																																																												
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																												
1名	5名	8名																																																															
7.4%	6.9%	6.3%																																																															
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																												
1名	5名	8名																																																															
7.4%	6.9%	6.3%																																																															

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																																																						
	（イ）国際経営学科が掲げる高い目標 ○海外ビジネス研修等の経験を積ませ、国際的な経営感覚を身につけさせるとともに、学業意欲を向上させ、卒業年次までに学生のうち1割以上がTOEICのAレベル（860点）に到達できるよう組織的に指導・支援し、達成を目指す。 イ 地域創造学部 （ウ）公共政策学科が掲げる高い目標 ○公共性の高い地域貢献活動等の経験を積ませることによって学生の社会貢献意識を高めさせるとともに、教育による能力開発や日々の生活指導を積極的に行うことで、公務員を希望する学生の公務員就職率を60%とすることを目指す。 ○卒業年次までに学生の1割以上が卒業要件の上位レベル（日経TEST520点、ニュース時事能力検定1級のいずれか）に到達できるよう組織的に指導・支援し達成を目指す。		●達成水準② ア 経営学部 （イ）国際経営学科が掲げる高い目標 ◆各年度の取組の目安 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>・ TOEIC860点以上 〔 1 割以上〕</td><td>・ TOEIC860点以上 〔 1 割以上〕</td><td>・ TOEIC860点以上 〔 1 割以上〕</td><td>・ TOEIC860点以上 〔 1 割以上〕</td><td>・ TOEIC860点以上 〔 1 割以上〕</td><td>・ TOEIC860点以上 〔 1 割以上〕</td></tr></table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>1. 5%</td><td>7. 3%</td><td>4. 6%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> （令和５年度実績） ・ 専門演習担当教員から、より高い点数取得を目指すように声かけや指導を行った。 （令和６年度実績） ・ 各ゼミ教員から、より高い目標の点数を目指すよう学生への呼びかけや指導を行った。 （令和７年度実績） ・ 試験終了ごとに学科会議にて結果を共有し、ゼミ担当教員を通じて学生へ面談や声かけを行った。 （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 ●達成水準② イ 地域創造学部 （ウ）公共政策学科が掲げる高い目標 ◆各年度の取組の目安 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>・ 公務員を希望する学生の公務員就職率〔60%〕 ・ 卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕</td><td>・ 公務員を希望する学生の公務員就職率〔60%〕 ・ 卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕</td><td>・ 公務員を希望する学生の公務員就職率〔60%〕 ・ 卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕</td><td>・ 公務員を希望する学生の公務員就職率〔60%〕 ・ 卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕</td><td>・ 公務員を希望する学生の公務員就職率〔60%〕 ・ 卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕</td><td>・ 公務員を希望する学生の公務員就職率〔60%〕 ・ 卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕</td></tr></table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>58. 4%</td><td>64. 9%</td><td>69. 3%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>6. 5%</td><td>6. 4%</td><td>9. 3%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 公務員を希望する学生の公務員就職率 卒業要件の上位レベル到達 （令和５年度実績） ・ 就職課から提供のあったイベント等の情報について、ゼミを通じて提供し参加を呼びかけるとともに公共機関インターンシップ、県内自治体職員による鼎談、公共政策学科就職セミナー、県内自治体等バスツアーを実施した。 （令和６年度実績） ・ 就職課から提供のあったイベント等の情報について、ゼミを通じて提供し参加を呼びかけるとともに公共機関インターンシップ、県内自治体職員による講話、県内自治体等バスツアーを実施した。 （令和７年度実績） ・ 就職課から提供のあったイベント等の情報について、ゼミを通じて提供し参加を呼びかけるとともに公共機関インターンシップの実施、県内公共機関に勤務している公共政策学科卒業生を招聘し公務員への理解を深める機会を提供した。 （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・ TOEIC860点以上 〔 1 割以上〕	・ TOEIC860点以上 〔 1 割以上〕	・ TOEIC860点以上 〔 1 割以上〕	・ TOEIC860点以上 〔 1 割以上〕	・ TOEIC860点以上 〔 1 割以上〕	・ TOEIC860点以上 〔 1 割以上〕	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	1. 5%	7. 3%	4. 6%				R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・ 公務員を希望する学生の公務員就職率〔60%〕 ・ 卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・ 公務員を希望する学生の公務員就職率〔60%〕 ・ 卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・ 公務員を希望する学生の公務員就職率〔60%〕 ・ 卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・ 公務員を希望する学生の公務員就職率〔60%〕 ・ 卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・ 公務員を希望する学生の公務員就職率〔60%〕 ・ 卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・ 公務員を希望する学生の公務員就職率〔60%〕 ・ 卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	58. 4%	64. 9%	69. 3%				6. 5%	6. 4%	9. 3%					
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																						
・ TOEIC860点以上 〔 1 割以上〕	・ TOEIC860点以上 〔 1 割以上〕	・ TOEIC860点以上 〔 1 割以上〕	・ TOEIC860点以上 〔 1 割以上〕	・ TOEIC860点以上 〔 1 割以上〕	・ TOEIC860点以上 〔 1 割以上〕																																																						
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																						
1. 5%	7. 3%	4. 6%																																																									
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																						
・ 公務員を希望する学生の公務員就職率〔60%〕 ・ 卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・ 公務員を希望する学生の公務員就職率〔60%〕 ・ 卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・ 公務員を希望する学生の公務員就職率〔60%〕 ・ 卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・ 公務員を希望する学生の公務員就職率〔60%〕 ・ 卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・ 公務員を希望する学生の公務員就職率〔60%〕 ・ 卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・ 公務員を希望する学生の公務員就職率〔60%〕 ・ 卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕																																																						
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																						
58. 4%	64. 9%	69. 3%																																																									
6. 5%	6. 4%	9. 3%																																																									

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																														
	（エ）実践経済学科が掲げる高い目標 ○「企業インターンシップ」（2年次必修科目）において、教員が事前指導、成果発表会、事後指導を行い、学生に対して実践力（諸課題の分析、解決能力等）を身に付けさせる。その結果5割以上の学生が、受入企業に対して課題提案を行うこと等を通じて高い評価を受けることを目指す。 ○卒業年次までに学生のうち1割以上が卒業要件の上位レベル（日経TEST520点）に到達できるよう組織的に指導・支援し達成を目指す。		●達成水準② イ 地域創造学部 （エ）実践経済学科が掲げる高い目標 ◆各年度の取組の目安 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・受入企業に対する課題提案等を通じて高い評価を受ける〔5割以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕</td><td>・受入企業に対する課題提案等を通じて高い評価を受ける〔5割以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕</td><td>・受入企業に対する課題提案等を通じて高い評価を受ける〔5割以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕</td><td>・受入企業に対する課題提案等を通じて高い評価を受ける〔5割以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕</td><td>・受入企業に対する課題提案等を通じて高い評価を受ける〔5割以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕</td><td>・受入企業に対する課題提案等を通じて高い評価を受ける〔5割以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕</td></tr> </tbody> </table> ◆各年度の実績 【途中評価（4年目終了時）】 【期間評価（6年目終了時）】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>47. 5%</td><td>52. 4%</td><td>58. 9%</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>23. 1%</td><td>24. 6%</td><td>20. 3%</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> 受入企業に対する課題提案等を通じて高い評価を受ける 卒業要件の上位レベル到達 （令和5年度実績） ・事前指導として基本的な心構え、マナー、企業研究や事前課題の検討を踏まえた事前報告会を実施したうえで10日間の企業インターンシップを行った。実施後は成果報告会を実施するとともに令和5年度より自己評価と他者評価を行うことで実践力の定着化を図った。 ・上位レベル資格については、試験前の勉強会の実施や社会経済全般の知識習得手法に力点を置いた指導を行うことで達成を目指した。 （令和6年度実績） ・基本的な心構えやマナー、受入企業との意見交換で出た内容を事前指導で学び、企業研究や事前課題の検討を踏まえた報告会を行ったうえで10日間の企業インターンシップを実施した。実施後は、アンケートを実施し今後の指導改善に活かすとともに主体的なキャリア形成に対する学生の意識向上を図った。事前指導をより細やかに実施したことが、高い評価に繋がったと考える。 ・上位レベルの資格については、講義でのプレゼン等で知識の定着化を図り、新聞の読み方を通じた社会経済全般の知識習得手法に力点を置いた指導を行った。 （令和7年度実績） ・インターンシップの意義や目的、社会人基礎力やマナーなど研修に必要な基本事項を学んだうえで、グループワーク形式で研修先の企業研究や「事前課題の解決案」の検討に取り組みさせ事前の成果発表を行った。インターンシップ実施後は、報告会を開催し学生の主体的なキャリア形成に対する意識向上を図った。 ・上位レベルの資格については、講義でのプレゼン等で知識の定着化を図り、新聞の読み方を通じた社会経済全般の知識習得手法に力点を置いた指導を行った。 （令和8年度実績） ・ （令和9年度実績） ・ （令和10年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・受入企業に対する課題提案等を通じて高い評価を受ける〔5割以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・受入企業に対する課題提案等を通じて高い評価を受ける〔5割以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・受入企業に対する課題提案等を通じて高い評価を受ける〔5割以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・受入企業に対する課題提案等を通じて高い評価を受ける〔5割以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・受入企業に対する課題提案等を通じて高い評価を受ける〔5割以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・受入企業に対する課題提案等を通じて高い評価を受ける〔5割以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	47. 5%	52. 4%	58. 9%				23. 1%	24. 6%	20. 3%					
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																														
・受入企業に対する課題提案等を通じて高い評価を受ける〔5割以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・受入企業に対する課題提案等を通じて高い評価を受ける〔5割以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・受入企業に対する課題提案等を通じて高い評価を受ける〔5割以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・受入企業に対する課題提案等を通じて高い評価を受ける〔5割以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・受入企業に対する課題提案等を通じて高い評価を受ける〔5割以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕	・受入企業に対する課題提案等を通じて高い評価を受ける〔5割以上〕 ・卒業要件の上位レベル到達〔1割以上〕																														
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																														
47. 5%	52. 4%	58. 9%																																	
23. 1%	24. 6%	20. 3%																																	

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（○）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																																				
	ウ 国際社会学部 （オ）国際社会学科が掲げる高い目標 ○【英語選択者】 国際情勢や経済、メディアについて英語で解説する授業科目を多く取り入れ、学生の国際感覚を磨く。さらなるコミュニケーション能力の向上を目指し、卒業年次までに英語選択者の１割以上がTOEICのAレベル（860点）または他の検定において同レベルに到達できるよう組織的に指導・支援し、達成を目指す。 【中国語選択者】 国際情勢や経済、メディアについて中国語で解説する授業科目を多く取り入れ、学生の国際感覚を磨く。さらなるコミュニケーション能力の向上を目指し、中国語選択者の半数以上が中国語検定準１級、または他の検定において同レベルに到達できるよう組織的に指導・支援し、達成を目指す。		●達成水準② ウ 国際社会学部 （オ）国際社会学科が掲げる高い目標 ◆各年度取組の目安 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>【英語選択者】 TOEIC860点以上 〔１割以上〕 【中国語選択者】 中国語検定準１級 〔半数以上〕</td><td>【英語選択者】 TOEIC860点以上 〔１割以上〕 【中国語選択者】 中国語検定準１級 〔半数以上〕</td><td>【英語選択者】 TOEIC860点以上 〔１割以上〕 【中国語選択者】 中国語検定準１級 〔半数以上〕</td><td>【英語選択者】 TOEIC860点以上 〔１割以上〕 【中国語選択者】 中国語検定準１級 〔半数以上〕</td><td>【英語選択者】 TOEIC860点以上 〔１割以上〕 【中国語選択者】 中国語検定準１級 〔半数以上〕</td><td>【英語選択者】 TOEIC860点以上 〔１割以上〕 【中国語選択者】 中国語検定準１級 〔半数以上〕</td></tr></table> ◆各年度の実績 <table><tr><th colspan="3">【途中評価（４年目終了時）】</th><th colspan="3">【期間評価（６年目終了時）】</th></tr><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>5. 2%</td><td>6. 5%</td><td>7. 5%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>0. 0%</td><td>0. 0%</td><td>0. 0%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> TOEIC860点以上 中国語検定準１級 （令和５年度実績） ・英語又は中国語を主に用いた科目を開講し、より高度な語学力が身に付けられる環境とするとともに高い語学力を取得している学生を積極的に採用している企業等の情報を提供することで、学習意欲向上を図った。なお、令和５年度の４年次生の中国語選択者は３名であった。 （令和６年度実績） ・年度当初に実施した県内企業紹介時に語学が生かせる企業や団体の情報を提供することで、学習意欲向上を図った。また、英語又は中国語を主に用いた科目の開講や、演習担当教員による学習状況への助言や指導を行うことで、より高度な語学力が身につくよう支援を行った。 なお、令和6年度の4年次生の中国語選択者は7名であった。 （令和７年度実績） ・演習担当教員が試験結果を共有しゼミ担当教員からの指導を行った。また、国際交流研究センター主催の海外インターンシップ事業を展開する企業のCEOを招いたセミナーへの参加を呼びかけ、学習意欲向上を図った。 （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけでなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	【英語選択者】 TOEIC860点以上 〔１割以上〕 【中国語選択者】 中国語検定準１級 〔半数以上〕	【英語選択者】 TOEIC860点以上 〔１割以上〕 【中国語選択者】 中国語検定準１級 〔半数以上〕	【英語選択者】 TOEIC860点以上 〔１割以上〕 【中国語選択者】 中国語検定準１級 〔半数以上〕	【英語選択者】 TOEIC860点以上 〔１割以上〕 【中国語選択者】 中国語検定準１級 〔半数以上〕	【英語選択者】 TOEIC860点以上 〔１割以上〕 【中国語選択者】 中国語検定準１級 〔半数以上〕	【英語選択者】 TOEIC860点以上 〔１割以上〕 【中国語選択者】 中国語検定準１級 〔半数以上〕	【途中評価（４年目終了時）】			【期間評価（６年目終了時）】			R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	5. 2%	6. 5%	7. 5%				0. 0%	0. 0%	0. 0%					
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																				
【英語選択者】 TOEIC860点以上 〔１割以上〕 【中国語選択者】 中国語検定準１級 〔半数以上〕	【英語選択者】 TOEIC860点以上 〔１割以上〕 【中国語選択者】 中国語検定準１級 〔半数以上〕	【英語選択者】 TOEIC860点以上 〔１割以上〕 【中国語選択者】 中国語検定準１級 〔半数以上〕	【英語選択者】 TOEIC860点以上 〔１割以上〕 【中国語選択者】 中国語検定準１級 〔半数以上〕	【英語選択者】 TOEIC860点以上 〔１割以上〕 【中国語選択者】 中国語検定準１級 〔半数以上〕	【英語選択者】 TOEIC860点以上 〔１割以上〕 【中国語選択者】 中国語検定準１級 〔半数以上〕																																				
【途中評価（４年目終了時）】			【期間評価（６年目終了時）】																																						
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																				
5. 2%	6. 5%	7. 5%																																							
0. 0%	0. 0%	0. 0%																																							
	エ 情報システム学部 （カ）情報システム学科が掲げる高い目標 ○次の資格取得者、イベント等での参加者及び入賞者を卒業年次までに総計５名以上輩出できるよう組織的に指導・支援し達成を目指す。 【資格】 ・情報処理技術者試験レベル３以上 ・情報技術分野（基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験）と情報デザイン分野（CG-ARTS検定エキスパート（マルチメディア検定を除く））の両分野における卒業要件資格の複数取得 【イベント等】 ・情報技術系コンテスト入賞（プログラミング・アプリケーション開発） ・情報デザイン系コンテスト入賞（映像・CG・グラフィックデザイン） ・課題解決系ビジネスコンテスト入賞 ・九州大会以上の学会・研究会・シンポジウムへの投稿・発表		●達成水準② エ 情報システム学部 （カ）情報システム学科が掲げる高い目標 ◆各年度取組の目安 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔５名以上〕</td><td>・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔５名以上〕</td><td>・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔５名以上〕</td><td>・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔５名以上〕</td><td>・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔５名以上〕</td><td>・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔５名以上〕</td></tr></table> ◆各年度の実績 <table><tr><th colspan="3">【途中評価（４年目終了時）】</th><th colspan="3">【期間評価（６年目終了時）】</th></tr><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>10名</td><td>6名</td><td>4名</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> （令和５年度実績） ・各資格取得対策に参加した学生を対象に複数資格取得を推奨するとともに、応用情報技術者試験については学内教員が希望者を対象に試験対策を実施した。また、学科ガイダンスにて全学年に「資格取得ロードマップ」を配付し高い目標を達成すれば奨励賞の対象となることの説明やゼミでイベントの参加周知を行うなど組織的に支援を行った。 （令和６年度実績） ・各資格取得対策に参加した学生を対象に複数資格取得を推奨するとともに、応用情報技術者試験については学内教員が希望者を対象に試験対策を実施した。また、学科ガイダンスにて全学年に「資格取得ロードマップ」を配付し高い目標を達成すれば奨励賞の対象となることの説明やゼミでイベントの参加周知を行うなど組織的に支援を行った。 （令和７年度実績） ・各資格取得対策に参加した学生を対象に複数資格取得を推奨するとともに、応用情報技術者試験については学内教員が希望者を対象に試験対策を実施した。また、学科ガイダンスにて全学年に「資格取得ロードマップ」を配付し高い目標を達成すれば奨励賞の対象となることの説明やゼミでイベントの参加周知を行うなど組織的に支援を行った。 （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔５名以上〕	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔５名以上〕	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔５名以上〕	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔５名以上〕	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔５名以上〕	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔５名以上〕	【途中評価（４年目終了時）】			【期間評価（６年目終了時）】			R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	10名	6名	4名											
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																				
・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔５名以上〕	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔５名以上〕	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔５名以上〕	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔５名以上〕	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔５名以上〕	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔５名以上〕																																				
【途中評価（４年目終了時）】			【期間評価（６年目終了時）】																																						
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																				
10名	6名	4名																																							

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等										
	（キ）情報セキュリティ学科が掲げる高い目標 ○次の資格取得者、イベント等への参加者及びこれらと同等以上のレベルを達成した学生を卒業年次までに総計8名（ただし令和5年度については5名）以上輩出できるよう組織的に指導・支援し達成を目指す。 【資格】 ・国際的なセキュリティ資格（CompTIA Security+） ・国際的なネットワークベンダ資格（シスコ社 CCENT/CCNA Security） ・情報処理技術者試験レベル3以上 ・スキル標準ユーザー協会が公表している「ITSSのキャリアフレームワークと認定試験・資格とのマップ」記載の資格レベル3以上 【イベント等】 ・情報技術系コンテストで予選通過、または上位50%以上の順位取得（プログラミング・アプリケーション開発） ・選抜あり情報系人材育成プログラムで修了認定 ・Basic SecCapコースにおいて、Basic SecCap8またはBasic SecCap10認定 ・課題解決系ビジネスコンテスト入賞 ・九州大会以上の学会・研究会・シンポジウムへの投稿・発表 オ 看護栄養学部 （ク）看護学科 ○看護師国家試験において合格率100%を目指し、少なくとも国公立大学平均水準を確保する。		※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 ●達成水準② エ 情報システム学部 （キ）情報セキュリティ学科が掲げる高い目標 ◆各年度の取組の目安 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔5名以上〕</td><td>・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔8名以上〕</td><td>・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔8名以上〕</td><td>・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔8名以上〕</td><td>・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔8名以上〕</td><td>・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔8名以上〕</td></tr></table> ◆各年度の実績	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔5名以上〕	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔8名以上〕	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔8名以上〕	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔8名以上〕	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔8名以上〕	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔8名以上〕
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度										
・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔5名以上〕	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔8名以上〕	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔8名以上〕	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔8名以上〕	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔8名以上〕	・資格取得者、イベント等での入賞者の輩出等〔8名以上〕										

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（ ）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																														
	（ケ）栄養健康学科 ○管理栄養士国家試験において合格率100%を目指し、少なくとも国公立大学平均水準を確保する。		（令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 ●達成水準②　　オ　看護栄養学部　（ケ）栄養健康学科が掲げる高い目標 ◆各年度の取組の目安 <table><tr><th>R５年度</th><th>R６年度</th><th>R７年度</th><th>R８年度</th><th>R９年度</th><th>R１０年度</th></tr><tr><td>・国公立大学の合格率平均水準の確保</td><td>・国公立大学の合格率平均水準の確保</td><td>・国公立大学の合格率平均水準の確保</td><td>・国公立大学の合格率平均水準の確保</td><td>・国公立大学の合格率平均水準の確保</td><td>・国公立大学の合格率平均水準の確保</td></tr></table> ◆各年度の実績 <table><tr><th colspan="3">【途中評価（４年目終了時）】</th><th colspan="3">【期間評価（６年目終了時）】</th></tr><tr><th>R５年度</th><th>R６年度</th><th>R７年度</th><th>R８年度</th><th>R９年度</th><th>R１０年度</th></tr><tr><td>89.7%</td><td>82.1%</td><td>87.2%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> （令和５年度実績） ・39名中35名合格 ・国公立平均　92.2% ・令和5年度においては、事故等により休学をせざるを得ない状況の学生など、個々の事情による対策の難しさがあったが、国試対策委員会を中心に定期的に面談を実施するとともに、模試の合格ボーダーライン付近の学生には重点的に個別指導を行った。また、国試対策科目（選択科目）の受講を促すとともに、「模試やりなおし学習ノート」をゼミ単位で管理するなど、より一人ひとりへの支援が行き渡るように対策を行った。 （令和６年度実績） ・39名中32名合格 ・国公立平均　89.7% ・令和6年度においては、国試対策委員会を中心に模試等の結果を踏まえた面談を複数回行い、冬季休業期間もGoogleフォームで学習内容をモニタリングするなど一人ひとりの学習の進捗や理解度を確認しながら、支援を行った。また、学内で強化合宿を実施し、集中して勉強できる環境を整え学習内容や時間、国家試験当日までの勉強スケジュールなどを細かくチェックし対策を行った。しかし、管理栄養士取得に対しての意識が低い学生等への学習へのモチベーションを最後まで引き上げることができなかったことが課題として残った。 （令和７年度実績） ・39名中34名合格（卒業後管理栄養士資格が必要な者12名中12名合格） ・国公立平均　88.8% ・国試対策委員会とゼミ担当教員が連携して、全学生に校内外模試のやり直しやポートフォリオの提出、学習記録の作成、複数回の面談を行った。12月以降は国試対策講義の実施、模試結果120点未満の学生を対象とした校内強化学習の実施、国試対策モニタリングシートを用いた学習時間や学習内容の共有などを行い継続的に指導を行った。さらに、強化学習の対象となった学生で了解を得た学生の保護者に対して、模試結果及び現状報告と支援のお願いを郵送で行った。試験終了後に行った学生アンケートを教員全体で共有し、次年度以降の管理栄養士資格取得へのモチベーションが低い学生への対応などを継続的に行っていく。 （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 ≪中期計画の達成状況≫ 【途中評価（４年目終了時）】 <令和５～８年度の実績の概要> ・ <令和９～１０年度の取組予定・中期計画の達成見込> ・ 【期間評価（６年目終了時）】 <令和５～１０年度の実績の概要> ・	R５年度	R６年度	R７年度	R８年度	R９年度	R１０年度	・国公立大学の合格率平均水準の確保	・国公立大学の合格率平均水準の確保	・国公立大学の合格率平均水準の確保	・国公立大学の合格率平均水準の確保	・国公立大学の合格率平均水準の確保	・国公立大学の合格率平均水準の確保	【途中評価（４年目終了時）】			【期間評価（６年目終了時）】			R５年度	R６年度	R７年度	R８年度	R９年度	R１０年度	89.7%	82.1%	87.2%					
R５年度	R６年度	R７年度	R８年度	R９年度	R１０年度																														
・国公立大学の合格率平均水準の確保	・国公立大学の合格率平均水準の確保	・国公立大学の合格率平均水準の確保	・国公立大学の合格率平均水準の確保	・国公立大学の合格率平均水準の確保	・国公立大学の合格率平均水準の確保																														
【途中評価（４年目終了時）】			【期間評価（６年目終了時）】																																
R５年度	R６年度	R７年度	R８年度	R９年度	R１０年度																														
89.7%	82.1%	87.2%																																	

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																								
【5】全学必修科目として展開している「数理・データサイエンス・AI教育」を充実させ、デジタル時代に親和性のある人材を育成する。	①令和5年度中に文部科学省による「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の認定を受ける。また、不断に教育効果の点検を行い、必要に応じプログラムの改善を行う。		≪達成水準の取組状況≫ ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・文部科学省の認定を受ける。</td><td>・教育効果の点検・プログラムの改善</td><td>・教育効果の点検・プログラムの改善</td><td>・教育効果の点検・プログラムの改善</td><td>・教育効果の点検・プログラムの改善</td><td>・教育効果の点検・プログラムの改善</td></tr> </tbody> </table> ◆各年度の実績 【途中評価（4年目終了時）】 【期間評価（6年目終了時）】 （令和5年度実績） ・令和5年8月25日付でプログラムの認定を受けた。講義の内容や実施状況についても、データサイエンス教育専門部会での自己点検及び全学教務委員会からの評価の結果、順調に進捗していると考えられる。 （令和6年度実績） ・講義の内容や実施状況については、データサイエンス教育専門部会での自己点検及び全学教務委員会からの評価の結果、順調に実施できていることを確認した。情報システム学部では、さらに上のレベルの文部科学省の認定への準備を進めており、さらなる教育の質の向上を目指している。 （令和7年度実績） ・令和7年度からモデルカリキュラムの改正に伴い「生成AIの概要」に関するコンテンツを追加したが、実施状況についてはデータサイエンス教育専門部会での自己点検及び全学教務委員会からの評価の結果、順調に実施できていることを確認した。また、情報システム学部においては、文部科学省「数理・データサイエンス・AIプログラム（応用基礎レベル）」の認定を受けた。 （令和8年度実績） ・ （令和9年度実績） ・ （令和10年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 ≪中期計画の達成状況≫ 【途中評価（4年目終了時）】 <令和5～8年度の実績の概要> ・ <令和9～10年度の取組予定・中期計画の達成見込> ・ 【期間評価（6年目終了時）】 <令和5～10年度の実績の概要> ・	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・文部科学省の認定を受ける。	・教育効果の点検・プログラムの改善	・教育効果の点検・プログラムの改善	・教育効果の点検・プログラムの改善	・教育効果の点検・プログラムの改善	・教育効果の点検・プログラムの改善														
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																								
・文部科学省の認定を受ける。	・教育効果の点検・プログラムの改善	・教育効果の点検・プログラムの改善	・教育効果の点検・プログラムの改善	・教育効果の点検・プログラムの改善	・教育効果の点検・プログラムの改善																								
（4）大学院課程			≪達成水準の取組状況≫ ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td><td>100%</td><td>100%</td><td>100%</td><td>100%</td><td>100%</td></tr> </tbody> </table> ◆各年度の実績 【途中評価（4年目終了時）】 【期間評価（6年目終了時）】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>144.6%</td><td>159.0%</td><td>160.0%</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <補足（令和5年度）> 各専攻において積極的にオリエンテーションや講義時間を活用した学内向け説明会や行政機関や企業、病院等での学外説明会を実施した。 ※特筆すべき事項がある場合や達成できない場合に記載すること。	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	100%	100%	100%	100%	100%	100%	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	144.6%	159.0%	160.0%					
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																								
100%	100%	100%	100%	100%	100%																								
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																								
144.6%	159.0%	160.0%																											

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等												
	②長期履修制度や昼夜開講制度、オンラインでの授業や研究指導を柔軟に活用することで、大学院生の学修環境の改善を行う。また、受講者の満足度（授業評価）を高く維持できるよう継続的改善を図る。		●達成水準② ◆各年度の取組の目安 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・学生の学び、満足度が高まるよう授業実施体制の改善</td><td>・学生の学び、満足度が高まるよう学修環境等の改善</td><td>・学生の学び、満足度が高まるよう学修環境等の改善</td><td>・学生の学び、満足度が高まるよう学修環境等の改善</td><td>・学生の学び、満足度が高まるよう学修環境等の改善</td><td>・学生の学び、満足度が高まるよう学修環境等の改善</td></tr> </tbody> </table> ※実績報告書において、大学院生の希望に沿った授業を実施できているかについて授業評価結果によって確認し、授業実施体制の改善のためのFD等の研修結果を記載 ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 （令和５年度実績） ・昼夜開講やオンライン授業、オンデマンド型授業など様々な授業形態を活用し社会人学生でも学びやすい授業体制の整備に努めた。また、学生の学修満足度を継続的に維持できるよう大学院でのリカレント教育の重要性や研究倫理について教員自身が再度学ぶFD研修会を実施した。 （令和６年度実績） ・昼夜開講やオンライン授業、オンデマンド型授業など様々な授業形態を活用し社会人学生でも学びやすい授業体制の整備に努めた。また、社会人学生の要望によりオンラインでの修士論文中間発表の実施や、classroomを活用した情報の共有、提出物管理を行うなど、大学院生の状況に合わせた改善を積極的に取り入れた。 （令和７年度実績） ・昼夜開講やオンライン授業、オンデマンド型授業など様々な授業形態を活用し社会人学生でも学びやすい授業体制の整備に努めた。また、今年度は文部科学省の「令和７年度 大学・高専機能強化支援事業」に採択され、令和8年度以降、学生の学び、満足度が高まるよう演習室や実験室、サテライトキャンパスの設置など学修環境の整備を進めることとした。 （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 《中期計画の達成状況》 【途中評価（４年目終了時）】 <令和５～８年度の実績の概要> ・ <令和９～１０年度の取組予定・中期計画の達成見込> ・ 【期間評価（６年目終了時）】 <令和５～１０年度の実績の概要> ・	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・学生の学び、満足度が高まるよう授業実施体制の改善	・学生の学び、満足度が高まるよう学修環境等の改善	・学生の学び、満足度が高まるよう学修環境等の改善	・学生の学び、満足度が高まるよう学修環境等の改善	・学生の学び、満足度が高まるよう学修環境等の改善	・学生の学び、満足度が高まるよう学修環境等の改善		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度												
・学生の学び、満足度が高まるよう授業実施体制の改善	・学生の学び、満足度が高まるよう学修環境等の改善	・学生の学び、満足度が高まるよう学修環境等の改善	・学生の学び、満足度が高まるよう学修環境等の改善	・学生の学び、満足度が高まるよう学修環境等の改善	・学生の学び、満足度が高まるよう学修環境等の改善												

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																								
（５）学生支援と県内就職向上のための取組の推進 【７】学修環境の整備を進め、教職員が一体となった学生への修学支援や心身の健康管理支援、また、経済的に困窮している学業優秀な学生に対する授業料減免等の経済的支援など、安全・安心な学生生活が送れるように多様な学生への組織的な支援を実施する。	①障害のある学生など多様な学生への修学支援や生活支援にかかる組織や制度の拡充について令和７年度までに検討を行い、令和８年度から実施する。 ②全学生に向けた学生生活にかかるアンケートの実施や学生との意見交換会の開催、留年・休学・退学状況等の把握により、全学的に情報の共有や現状分析及び検証を行い、組織的な支援を実施する。		《達成水準の取組状況》 ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・組織や制度の拡充の検討</td><td>・組織や制度の拡充の検討</td><td>・組織や制度の拡充の検討</td><td>・組織や制度の拡充の実施及び検証、さらなる充実</td><td>・組織や制度の拡充の実施及び検証、さらなる充実</td><td>・組織や制度の拡充の実施及び検証、さらなる充実</td></tr> </tbody> </table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 （令和５年度実績） ・先行事例として修学支援センター等が設置されている他大学の調査及び関係者との意見交換を行い、本学における支援体制等についての検討を行った。 （令和６年度実績） ・先行事例として、県内の大学の状況について調査を実施した。また、九州地区公立大学学生部長会議にて、九州各公立大学の学生に対する相談体制や情報共有の方法などの取組みについて意見交換を行い、本学における支援体制等についての検討を重ねている。 （令和７年度実績） ・九州地区の公立大学の会議や全国高等教育障害学生支援協議会が開催するカンファレンス等に参加し、情報収集、意見交換を行った。さらに学内で学生支援体制のさらなる充実のための情報収集として「こころや気持ちのサポートアンケート」を実施し学生へフィードバックした。またその結果を踏まえて検討し、さらなる支援窓口の周知を充実するとともに、合理的配慮申請に伴う適切な学修支援、各校へのカウンセラーの配置を継続することとした。他にも生活支援として両校後援会と連携し物価高に対する経済対策支援事業を継続することとし、現在学生主体で活動している「ピア・サポート」の活動について、令和８年度からは大学も連携し充実を図っていくこととした。 （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 ●達成水準② ◆各年度の取組の目安 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・現状分析及び検証、組織的な支援の実施</td><td>・現状分析及び検証、組織的な支援の実施</td><td>・現状分析及び検証、組織的な支援の実施</td><td>・現状分析及び検証、組織的な支援の実施</td><td>・現状分析及び検証、組織的な支援の実施</td><td>・現状分析及び検証、組織的な支援の実施</td></tr> </tbody> </table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 （令和５年度実績） ・学生生活に係るアンケート結果を全学的に共有するとともに各部署で対応の検討・改善を行った。また、留年・休学・退学状況等を関係学部・学科と共有し必要に応じて学生相談員に繋ぐなど組織的な支援を実施した。 （令和６年度実績） ・学生生活に係るアンケート調査を実施し、各部署で対応の検討、改善を行い教育環境や学生生活の充実に努めた。また、留年・休学・退学状況等を関係学部・学科と共有し、必要に応じた組織的な学生支援を実施した。 （令和７年度実績） ・学生生活に係るアンケート調査を実施し、各部署で対応の検討、改善を行い教育環境や学生生活の充実に努めた。また、留年・休学・退学状況等を関係学部・学科と共有し、必要に応じた組織的な学生支援を実施した。 （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・組織や制度の拡充の検討	・組織や制度の拡充の検討	・組織や制度の拡充の検討	・組織や制度の拡充の実施及び検証、さらなる充実	・組織や制度の拡充の実施及び検証、さらなる充実	・組織や制度の拡充の実施及び検証、さらなる充実	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・現状分析及び検証、組織的な支援の実施	・現状分析及び検証、組織的な支援の実施	・現状分析及び検証、組織的な支援の実施	・現状分析及び検証、組織的な支援の実施	・現状分析及び検証、組織的な支援の実施	・現状分析及び検証、組織的な支援の実施		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																								
・組織や制度の拡充の検討	・組織や制度の拡充の検討	・組織や制度の拡充の検討	・組織や制度の拡充の実施及び検証、さらなる充実	・組織や制度の拡充の実施及び検証、さらなる充実	・組織や制度の拡充の実施及び検証、さらなる充実																								
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																								
・現状分析及び検証、組織的な支援の実施	・現状分析及び検証、組織的な支援の実施	・現状分析及び検証、組織的な支援の実施	・現状分析及び検証、組織的な支援の実施	・現状分析及び検証、組織的な支援の実施	・現状分析及び検証、組織的な支援の実施																								

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																																																																		
			≪中期計画の達成状況≫ 【途中評価（４年目終了時）】 <令和５～８年度の実績の概要> ・ <令和９～１０年度 of 取組予定・中期計画の達成見込> ・ 【期間評価（６年目終了時）】 <令和５～１０年度の実績の概要> ・																																																																				
【８】教員と就職課が連携・協力し、進路指導や就職活動の支援を強化することにより、高い就職率を維持する。また、地域等の中枢を担う行政職等への就職を希望する学生の支援として、学内外の優れた取組を全学で共有するなど、その方法の検討を行う。	①就職希望者全員が就職できるように支援していくとともに、就職率（就職希望者に対する就職者の割合）については、次の水準を維持する。 ・就職希望者の就職率95% ※景気変動等による全国大学平均就職率の変動を考慮する。		≪達成水準の取組状況≫ ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>95%</td><td>95%</td><td>95%</td><td>95%</td><td>95%</td><td>95%</td></tr></table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>99. 5%</td><td>99. 7%</td><td>99. 7%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 全学部 経営 地域創造 国際社会 情報システム 看護栄養 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>99. 5%</td><td>99. 7%</td><td>99. 7%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>100. 0%</td><td>99. 4%</td><td>99. 4%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>99. 1%</td><td>99. 6%</td><td>99. 5%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>100. 0%</td><td>100. 0%</td><td>100. 0%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>100. 0%</td><td>100. 0%</td><td>100. 0%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>98. 7%</td><td>100. 0%</td><td>100. 0%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <補足> ※特筆すべき事項がある場合や達成できない場合に記載すること。 ≪中期計画の達成状況≫ 【途中評価（４年目終了時）】 <令和５～８年度の実績の概要> ・ <令和９～１０年度 of 取組予定・中期計画の達成見込> ・ 【期間評価（６年目終了時）】 <令和５～１０年度の実績の概要> ・	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	95%	95%	95%	95%	95%	95%	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	99. 5%	99. 7%	99. 7%				R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	99. 5%	99. 7%	99. 7%				100. 0%	99. 4%	99. 4%				99. 1%	99. 6%	99. 5%				100. 0%	100. 0%	100. 0%				100. 0%	100. 0%	100. 0%				98. 7%	100. 0%	100. 0%					
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																																		
95%	95%	95%	95%	95%	95%																																																																		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																																		
99. 5%	99. 7%	99. 7%																																																																					
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																																		
99. 5%	99. 7%	99. 7%																																																																					
100. 0%	99. 4%	99. 4%																																																																					
99. 1%	99. 6%	99. 5%																																																																					
100. 0%	100. 0%	100. 0%																																																																					
100. 0%	100. 0%	100. 0%																																																																					
98. 7%	100. 0%	100. 0%																																																																					

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																																										
【9】学生が主体的に県内自治体や県内企業等を選択する意思決定の支援として、県内企業等による企業説明会や県内企業等に就職した卒業生との交流会の開催など、県内就職の魅力を伝える取り組みを実施する。また、県及び県内企業等との連携による取り組みを通じて、教職員においても県内就職・県内企業等への理解を深め、教職員の役割分担に基づいた協働により、学生の県内定着促進に取り組む。 県内就職向上プロジェクトチームにおいては、県内就職向上を具体化するための計画を策定するとともに、学内取組状況を把握し、必要に応じて改善を行う。	①新規学卒就職者に対する県内就職者の割合44%（令和7年度）を目指し、以下の取り組みを行う。 ・県内就職向上プロジェクトチームにおける計画策定及び進捗管理等 ・教職員が連携して実施する、県内企業等に就職した卒業生との交流会開催 ・教職員と県内企業等との情報交換（県内企業訪問等 300社） ・学科の特色や学生のスキルに合わせた、個別学生への働きかけを含む県内就職（誘致企業等への就職を含む）支援の展開		《達成水準の取組状況》 ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table><tr><td>R 5 年度</td><td>R 6 年度</td><td>R 7 年度</td><td>R 8 年度</td><td>R 9 年度</td><td>R 1 0 年度</td></tr><tr><td>44%</td><td>44%</td><td>44%</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table> ※実績報告書には、左記の取組以外で行ったものも記載 <table><tr><td>R 5 年度</td><td>R 6 年度</td><td>R 7 年度</td><td>R 8 年度</td><td>R 9 年度</td><td>R 1 0 年度</td></tr><tr><td>・左記に記載の取組の状況</td><td>・左記に記載の取組の状況</td><td>・左記に記載の取組の状況</td><td>・左記に記載の取組の状況</td><td>・左記に記載の取組の状況</td><td>・左記に記載の取組の状況</td></tr></table> ◆各年度の実績 <table><tr><td colspan="3">【途中評価（4年目終了時）】</td><td colspan="3">【期間評価（6年目終了時）】</td></tr><tr><td>R 5 年度</td><td>R 6 年度</td><td>R 7 年度</td><td>R 8 年度</td><td>R 9 年度</td><td>R 1 0 年度</td></tr><tr><td>36.3%</td><td>33.2%</td><td>33.4%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> （令和5年度実績） 県内就職率36.3%（県内出身者の県内定着率62.1%） 新規学卒就職者600名のうち、県内就職者数218名 →県内就職者数218名のうち、県内公務員就職者数52名、県内学校教員就職者数5名 ・学長のもと、県内就職向上プロジェクトチーム（以下、県内就職向上PT）会議を4回開催し、学内取組実績の共有や県内就職向上を具体化するための計画策定、進捗管理を行ったほか、学科から企画・要望のあった県内就職に係る予算を配分し、各学科の特色を活かした取組を新たに実施した。取組後はその課題や成果等について、県内就職向上PT会議で共有した。 ・教職員が連携して実施する、県内企業等に就職した卒業生との交流会を6回開催するとともに、企業説明会等でも企業側に多くの卒業生を派遣していただいた。 ・教職員と県内企業等との情報交換 県内企業訪問等 720社 ・県内就職向上PTで掲げた方針に基づき、学科の特色にあった、県内自治体や県内企業等を知る機会を学生に提供した。多くの学生が県内企業等との接点を持てるよう、授業やゼミの時間を活用するなど、工夫して実施した。 《県内企業等を知る機会の例》 「企業見学会（佐世保工業会、海外ビジネス研修先等）」「意見交換会（長崎労働局等）」「地元経済界の経営者との座談会」「公共機関インターンシップ先以外の自治体等対象バスツアー」「県内IT関連企業情報の学生への周知」「県内企業との協働」「県内病院合同説明会」「県内企業内定者（4年生）との座談会」「企業インターンシップ」「公共機関インターンシップ」等 ・県内就職支援員は、「県内企業等の情報収集」を行う一方、学科等と連携し、授業やゼミの時間を通じて「県内企業情報等を学生に提供」するとともに、「インターンシップ後のアフターフォロー」の活動を行った。 ・就職課においては、長崎労働局や県、学科や県内就職支援員等とも連携しながら、「企業見学会」「学内合同業界セミナー」「業界企業研究会」「就職実践セミナー」等を開催するとともに、推薦求人の拡大といった、県内就職に繋がる取組を行った。そのほか、個別相談において、学生のニーズに合わせた県内企業への訪問を調整して学生を実際に訪問させるなど、選考に繋げる対応も行った。 ・そのほかの県内定着に向けた取組としては、長崎県に愛着のある学生の育成を目指して、県の魅力や地域の特異性に加え、長崎での就業・定着を意識させる内容の授業等を低学年次から実施した。 （令和6年度実績） 県内就職率33.2%（県内出身者の県内定着率56.0%） 新規学卒就職者630名のうち、県内就職者数209名 →県内就職者数209名のうち、県内公務員就職者数50名（うち県内学校教員就職者数1名） ・県内就職率向上プロジェクトチーム（以下、「PT」）会議を年3回開催し、令和5年度の取組実績を共有し、県内就職率向上へ向けた令和6年度具体的計画の進捗管理を行った。また、各学科へ県内就職に係る予算を配分し、各学科からの企画・要望に基づき、各学科の特色を活かした取組を支援した。その取組はその課題や成果等についてはPT会議で共有した。 ・教職員が県内企業等との情報交換（749社）を行い、県内企業等の情報を学生に共有した。 ・学内での各種セミナーや説明会、インターンシップ、企業見学会、卒業生との座談会などにより、県内企業等との接点や卒業生との交流を行う機会を設けた。また、学科とキャリア支援統括マネージャーが連携し、授業やゼミの時間を通じて県内企業等の情報を提供する機会を設け、より多くの学生が県内企業等を知る機会を提供した。 （令和7年度実績） ・県内就職率33.4%（県内出身者の県内定着率59.9%） 新規学卒就職者614名のうち、県内就職者数205名 →県内就職者数205名のうち、県内公務員就職者数50名（うち県内学校教員就職者数7名） ・県内就職率向上プロジェクトチーム（以下、「PT」）会議を年3回開催し、令和6年度の取組実績を共有し、令和7年度具体的計画に基づき、各部局の取組について進捗管理を行った。また、中期計画の変更に伴い、令和8年度以降は県内就職率44%の数値目標を削除することになったが、令和8年度以降は就職委員会を中心に、引き続き県内就職に繋がる取組を行っていくことをPT会議において決定した。 ・教職員が県内企業等との情報交換（834社）を行い、県内企業等の情報を学生に共有した。 ・学内での各種セミナーや説明会、インターンシップ、企業見学会、卒業生との座談会などにより、県内企業等との接点や卒業生との交流を行う機会を設けた。また、学科とキャリア支援統括マネージャーが連携し、授業やゼミの時間を通じて県内企業等の情報を提供する機会を設け、より多くの学生に県内企業等を知る機会を提供した。 （令和8年度実績） ・	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	44%	44%	44%	—	—	—	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・左記に記載の取組の状況	・左記に記載の取組の状況	・左記に記載の取組の状況	・左記に記載の取組の状況	・左記に記載の取組の状況	・左記に記載の取組の状況	【途中評価（4年目終了時）】			【期間評価（6年目終了時）】			R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	36.3%	33.2%	33.4%					
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																										
44%	44%	44%	—	—	—																																										
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																										
・左記に記載の取組の状況	・左記に記載の取組の状況	・左記に記載の取組の状況	・左記に記載の取組の状況	・左記に記載の取組の状況	・左記に記載の取組の状況																																										
【途中評価（4年目終了時）】			【期間評価（6年目終了時）】																																												
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																										
36.3%	33.2%	33.4%																																													

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）						ウエイト	評価委員会意見等																																																
			（令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 《中期計画の達成状況》 【途中評価（４年目終了時）】 ＜令和５～８年度の実績の概要＞ ・ ＜令和９～１０年度 of 取組予定・中期計画の達成見込＞ ・ 【期間評価（６年目終了時）】 ＜令和５～１０年度の実績の概要＞ ・																																																							
（６）外国人留学生の受入れ・日本人学生等の海外への派遣及び国際交流の推進 【10】異文化理解、国際的素養等を身につけたグローバルに活躍できる人材を育成するため、優秀な外国人留学生の受入れや日本人学生等の留学派遣等を積極的に行いつつ、日本人学生等と外国人留学生及び国際協力機構等との交流を促進するとともに、国際交流協定校等との交流促進を図る。 また、学修や就職等に関するきめ細やかな支援により外国人留学生の満足度を高める。	①国際交流協定校における外国人留学生の受入・日本人学生等派遣数及び私費外国人留学生の受入数30名（令和10年度） ②外国人留学生と日本人学生等との学内外交流イベント開催数　2回（毎年度）		《達成水準の取組状況》 ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table><tr><td>R 5 年度</td><td>R 6 年度</td><td>R 7 年度</td><td>R 8 年度</td><td>R 9 年度</td><td>R 1 0 年度</td></tr><tr><td>20名</td><td>22名</td><td>24名</td><td>26名</td><td>28名</td><td>30名</td></tr></table> ※参考　令和4年度実績：19名 ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 <table><tr><td>R 5 年度</td><td>R 6 年度</td><td>R 7 年度</td><td>R 8 年度</td><td>R 9 年度</td><td>R 1 0 年度</td></tr><tr><td>24名</td><td>34名</td><td>14名</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ＜補足（令和７年度）＞ 令和7年度については、円安や物価高による留学費用負担の大幅な増、国際情勢への不安定化、一部協定校との協定解消などの理由から日本人学生の派遣、外国人留学生の受入れともに減少結果となった。国際情勢について様子を見ながら、引続き学生への留学説明会の開催、交換留学の帰国報告会の開催、協定校への広報活動など、留学への関心を高める取組みを実施していくこととした。 ※特筆すべき事項がある場合や達成できない場合に記載すること。 ●達成水準② ◆各年度の取組の目安 <table><tr><td>R 5 年度</td><td>R 6 年度</td><td>R 7 年度</td><td>R 8 年度</td><td>R 9 年度</td><td>R 1 0 年度</td></tr><tr><td>2回</td><td>2回</td><td>2回</td><td>2回</td><td>2回</td><td>2回</td></tr></table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 <table><tr><td>R 5 年度</td><td>R 6 年度</td><td>R 7 年度</td><td>R 8 年度</td><td>R 9 年度</td><td>R 1 0 年度</td></tr><tr><td>3回</td><td>14回</td><td>10回</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ＜補足（令和５年度）＞ 国際交流活性化、留学生サポートを目的として令和5年度より国際交流サポーター学生を配置した。 ＜補足（令和６年度）＞ 国際交流サポーターの積極的な活動により、交流の活発化に繋がった。教職員や学生が企画し、留学生歓送迎会やランチ交流会などを開催し交流を深めるとともに、自治体が開催するイベントに留学生及び日本人学生とで参加することで、地域住民等とも交流を深めた。（自治体イベント：NAGAYO MACHI CAFÉ、佐世保留学生交流推進協議会スポーツ交流会　など） ＜補足（令和７年度）＞ 国際交流サポーターの積極的な活動により、交流の活発化に繋がった。教職員や学生が企画し、留学生歓送迎会やランチ交流会などを開催し交流を深めた。特に令和7年度は、サポーター学生と留学生と一緒にイベントの内容を考案し、文化研修旅行を実施した。さらに、自治体が開催するイベントに留学生及び日本人学生とで参加することで、地域住民等とも交流を深めた。（自治体イベント：NAGAYO MACHI CAFÉ、国際料理教室　など） ※特筆すべき事項がある場合や達成できない場合に記載すること。						R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	20名	22名	24名	26名	28名	30名	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	24名	34名	14名				R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	2回	2回	2回	2回	2回	2回	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	3回	14回	10回					
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																					
20名	22名	24名	26名	28名	30名																																																					
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																					
24名	34名	14名																																																								
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																					
2回	2回	2回	2回	2回	2回																																																					
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																					
3回	14回	10回																																																								

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																																																
	③外国人留学生への満足度アンケート及びヒアリングの実施 ・アンケート満足度 70%（毎年度）		●達成水準③ ◆各年度の取組の目安 <table><tr><td>R 5 年度</td><td>R 6 年度</td><td>R 7 年度</td><td>R 8 年度</td><td>R 9 年度</td><td>R 1 0 年度</td></tr><tr><td>70%</td><td>70%</td><td>70%</td><td>70%</td><td>70%</td><td>70%</td></tr></table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 <table><tr><td>R 5 年度</td><td>R 6 年度</td><td>R 7 年度</td><td>R 8 年度</td><td>R 9 年度</td><td>R 1 0 年度</td></tr><tr><td>83. 3%</td><td>100. 0%</td><td>100. 0%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <補足> ※特筆すべき事項がある場合や達成できない場合に記載すること。 《中期計画の達成状況》 【途中評価（４年目終了時）】 <令和５～８年度の実績の概要> ・ <令和９～１０年度の取組予定・中期計画の達成見込> ・ 【期間評価（６年目終了時）】 <令和５～１０年度の実績の概要> ・	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	70%	70%	70%	70%	70%	70%	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	83. 3%	100. 0%	100. 0%																													
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																
70%	70%	70%	70%	70%	70%																																																
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																
83. 3%	100. 0%	100. 0%																																																			
（７）入試の適正な実施及び県内高校生の受入促進 【11】 適正な入学者選抜を行うために入試業務・運営に関するチェック体制を適切に機能させる。 また、入試終了後には入試実施体制等、入試業務全般について点検を行うとともに、入学者選抜方法の分析・検証を行い、必要に応じて改善を図る。	① I Rの機能を活用し、必要に応じた入試に関する分析を行い、適宜全学にフィードバックを行う。		《達成水準の取組状況》 ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table><tr><td>R 5 年度</td><td>R 6 年度</td><td>R 7 年度</td><td>R 8 年度</td><td>R 9 年度</td><td>R 1 0 年度</td></tr><tr><td>・分析、フィードバックの実施及び改善</td><td>・分析、フィードバックの実施及び改善</td><td>・分析、フィードバックの実施及び改善</td><td>・分析、フィードバックの実施及び改善</td><td>・分析、フィードバックの実施及び改善</td><td>・分析、フィードバックの実施及び改善</td></tr></table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 <table><tr><td colspan="6">（令和５年度実績） ・入試結果について、学部別・県内外別の志願者数の推移、一般選抜における共通テスト成績分布などの分析を行い、全学及び学部入試委員会へフィードバックし入試制度の見直しについて検討を進めた。</td></tr><tr><td colspan="6">（令和６年度実績） ・入試結果について、学部別・県内外別の志願者数の推移、一般選抜における共通テスト成績分布などの分析を行い、全学及び学部入試委員会へフィードバックし入試制度の見直しについて検討を進めた。</td></tr><tr><td colspan="6">（令和７年度実績） ・入試結果について、学部別・県内外別の志願者数の推移、一般選抜における共通テスト成績分布などの分析を行い、全学及び学部入試委員会へフィードバックし入試制度の見直しについて検討を進めた。</td></tr><tr><td colspan="6">（令和８年度実績） ・</td></tr><tr><td colspan="6">（令和９年度実績） ・</td></tr><tr><td colspan="6">（令和１０年度実績） ・</td></tr></table> ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・分析、フィードバックの実施及び改善	・分析、フィードバックの実施及び改善	・分析、フィードバックの実施及び改善	・分析、フィードバックの実施及び改善	・分析、フィードバックの実施及び改善	・分析、フィードバックの実施及び改善	（令和５年度実績） ・入試結果について、学部別・県内外別の志願者数の推移、一般選抜における共通テスト成績分布などの分析を行い、全学及び学部入試委員会へフィードバックし入試制度の見直しについて検討を進めた。						（令和６年度実績） ・入試結果について、学部別・県内外別の志願者数の推移、一般選抜における共通テスト成績分布などの分析を行い、全学及び学部入試委員会へフィードバックし入試制度の見直しについて検討を進めた。						（令和７年度実績） ・入試結果について、学部別・県内外別の志願者数の推移、一般選抜における共通テスト成績分布などの分析を行い、全学及び学部入試委員会へフィードバックし入試制度の見直しについて検討を進めた。						（令和８年度実績） ・						（令和９年度実績） ・						（令和１０年度実績） ・							
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																
・分析、フィードバックの実施及び改善	・分析、フィードバックの実施及び改善	・分析、フィードバックの実施及び改善	・分析、フィードバックの実施及び改善	・分析、フィードバックの実施及び改善	・分析、フィードバックの実施及び改善																																																
（令和５年度実績） ・入試結果について、学部別・県内外別の志願者数の推移、一般選抜における共通テスト成績分布などの分析を行い、全学及び学部入試委員会へフィードバックし入試制度の見直しについて検討を進めた。																																																					
（令和６年度実績） ・入試結果について、学部別・県内外別の志願者数の推移、一般選抜における共通テスト成績分布などの分析を行い、全学及び学部入試委員会へフィードバックし入試制度の見直しについて検討を進めた。																																																					
（令和７年度実績） ・入試結果について、学部別・県内外別の志願者数の推移、一般選抜における共通テスト成績分布などの分析を行い、全学及び学部入試委員会へフィードバックし入試制度の見直しについて検討を進めた。																																																					
（令和８年度実績） ・																																																					
（令和９年度実績） ・																																																					
（令和１０年度実績） ・																																																					

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等												
	②毎年度の入試実施後に、入試委員会が入学者選抜方法や入試業務・運営に関するチェック体制等、入試業務全般について分析・検証を行い、必要に応じて見直しを行う。		●達成水準② ◆各年度の取組の目安 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・分析・検証の実施及び改善</td><td>・分析・検証の実施及び改善</td><td>・分析・検証の実施及び改善</td><td>・分析・検証の実施及び改善</td><td>・分析・検証の実施及び改善</td><td>・分析・検証の実施及び改善</td></tr> </tbody> </table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 （令和５年度実績） ・入試実施後に教職員から聴取した意見を参考に連絡ルートや人員配置の見直しを行い、業務の円滑化、負担軽減を図った。また、問題作成時などは終了ごとにチェックシートの記入を行い、適切で公正な試験問題の作成に取り組み、各一般選抜（前期・後期）終了後、検査機関へ問題の提出を行い、問題の適正確認を行った。 ・令和５年度においては、前期試験で監督者の受験生への誤った指示、後期試験では条件提示が不足した不適切な出題があった。令和６年度以降、「実施要領・監督要領」の見直し、監督者への事前説明会での注意事項の周知徹底等を図るとともに、問題作成におけるチェック体制を再検討し、再発防止に努める。 （令和６年度実績） ・入試実施後に教職員から聴取した意見を参考に仮受験票発行の対応方法について見直しを行い、業務の円滑化を図った。また、問題作成時などは終了ごとにチェックシートの記入を行い、適切で公正な試験問題の作成に取り組み、一般選抜（前期・後期）終了後、検査機関へ問題の提出を行い、問題の適正確認を行った。令和７年度の入試においては、前年度の監督者に誤った指示や、不適切な出題があったため、実施要領・監督要領の見直しや分冊の作成、監督者の試験会場入室までのスケジュールの見直しを行うとともに、一部の科目では試験実施前に検査機関への問題検査を依頼し、事前の事故防止に努めた。 （令和７年度実績） ・前年度入試において、点検・検証し不正行為のリスク軽減に繋がる見直しを行い実施した。佐世保校においては、建替えに伴う実施会場の変更などもあったが、問題なく実施することができた。 また、問題作成時は昨年度同様に終了ごとにチェックシートの記入を行い、適切で公正な試験問題の作成に取り組み、一般選抜（前期・後期）終了後、検査機関へ問題の提出を行い、問題の適正確認を行った。併せて、一部の科目では試験実施前に検査機関への問題検査を依頼し、事前の事故防止に努めた。 （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 《中期計画の達成状況》 【途中評価（４年目終了時）】 ＜令和５～８年度の実績の概要＞ ・ ＜令和９～１０年度の取組予定・中期計画の達成見込＞ ・ 【期間評価（６年目終了時）】 ＜令和５～１０年度の実績の概要＞ ・	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・分析・検証の実施及び改善	・分析・検証の実施及び改善	・分析・検証の実施及び改善	・分析・検証の実施及び改善	・分析・検証の実施及び改善	・分析・検証の実施及び改善		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度												
・分析・検証の実施及び改善	・分析・検証の実施及び改善	・分析・検証の実施及び改善	・分析・検証の実施及び改善	・分析・検証の実施及び改善	・分析・検証の実施及び改善												

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（ ）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等
【12】国内外の意欲的かつ優秀な学生の獲得を目指すとともに、県内高校との連携を図り高大接続の強化を行う。	①「大学入学共通テストにおける県内志願者数」に占める「本学一般選抜における県内志願者数」の割合が第3期中期計画最終年度を基準として上昇傾向にある。 <				

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（ ）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																		
	③県教育委員会との「高大連携のあり方」についての協議を定期的 に実施する。さらに、県内志願者 獲得のため、県内高校へ積極的に 情報発信し、在学生による母校い くばいプログラムや高校の課題探 究型学習等での連携、高校生向け の出前講義及び学内での体験学習 等を開催する。		●達成水準③ ◆各年度の取組の目安 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>・教育委員会との協議の実施 ・県内志願者獲得のための各種取組の実施</td><td>・教育委員会との協議の実施 ・県内志願者獲得のための各種取組の実施</td><td>・教育委員会との協議の実施 ・県内志願者獲得のための各種取組の実施</td><td>・教育委員会との協議の実施 ・県内志願者獲得のための各種取組の実施</td><td>・教育委員会との協議の実施 ・県内志願者獲得のための各種取組の実施</td><td>・教育委員会との協議の実施 ・県内志願者獲得のための各種取組の実施</td></tr></table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 <table><tr><td>（令和５年度実績） ・県教育委員会との連絡協議会を開催し、高大連携等に関する意見交換を行った。また、出前講義、一日大学生、高大連携理科実験等の体験学習を開催し県内高校へ積極的に情報発信を行った。</td></tr><tr><td>（令和６年度実績） ・県教育委員会との連絡協議会を開催し、高大連携等に関する意見交換を行った。また、出前講義、一日大学生、高大連携理科実験、文理探究科研修の受入れなどの体験学習を開催し県内高校へ積極的に情報発信を行った。 さらに、県教育委員会及び企業との4者における教育事業連携協定を締結することで、相互の知的・人的資源を活用した取組みを行い高大連携を深めていくこととした。</td></tr><tr><td>（令和７年度実績） ・県教育委員会との連絡協議会を開催し、高大連携等に関する意見交換を行った。また、出前講義、一日大学生、高大連携理科実験、文理探究科研修の受入れなどの体験学習を開催し県内高校へ積極的に情報発信を行った。</td></tr><tr><td>（令和８年度実績） ・</td></tr><tr><td>（令和９年度実績） ・</td></tr><tr><td>（令和１０年度実績） ・</td></tr></table> ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・教育委員会との協議の実施 ・県内志願者獲得のための各種取組の実施	・教育委員会との協議の実施 ・県内志願者獲得のための各種取組の実施	・教育委員会との協議の実施 ・県内志願者獲得のための各種取組の実施	・教育委員会との協議の実施 ・県内志願者獲得のための各種取組の実施	・教育委員会との協議の実施 ・県内志願者獲得のための各種取組の実施	・教育委員会との協議の実施 ・県内志願者獲得のための各種取組の実施	（令和５年度実績） ・県教育委員会との連絡協議会を開催し、高大連携等に関する意見交換を行った。また、出前講義、一日大学生、高大連携理科実験等の体験学習を開催し県内高校へ積極的に情報発信を行った。	（令和６年度実績） ・県教育委員会との連絡協議会を開催し、高大連携等に関する意見交換を行った。また、出前講義、一日大学生、高大連携理科実験、文理探究科研修の受入れなどの体験学習を開催し県内高校へ積極的に情報発信を行った。 さらに、県教育委員会及び企業との4者における教育事業連携協定を締結することで、相互の知的・人的資源を活用した取組みを行い高大連携を深めていくこととした。	（令和７年度実績） ・県教育委員会との連絡協議会を開催し、高大連携等に関する意見交換を行った。また、出前講義、一日大学生、高大連携理科実験、文理探究科研修の受入れなどの体験学習を開催し県内高校へ積極的に情報発信を行った。	（令和８年度実績） ・	（令和９年度実績） ・	（令和１０年度実績） ・		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																		
・教育委員会との協議の実施 ・県内志願者獲得のための各種取組の実施	・教育委員会との協議の実施 ・県内志願者獲得のための各種取組の実施	・教育委員会との協議の実施 ・県内志願者獲得のための各種取組の実施	・教育委員会との協議の実施 ・県内志願者獲得のための各種取組の実施	・教育委員会との協議の実施 ・県内志願者獲得のための各種取組の実施	・教育委員会との協議の実施 ・県内志願者獲得のための各種取組の実施																		
（令和５年度実績） ・県教育委員会との連絡協議会を開催し、高大連携等に関する意見交換を行った。また、出前講義、一日大学生、高大連携理科実験等の体験学習を開催し県内高校へ積極的に情報発信を行った。																							
（令和６年度実績） ・県教育委員会との連絡協議会を開催し、高大連携等に関する意見交換を行った。また、出前講義、一日大学生、高大連携理科実験、文理探究科研修の受入れなどの体験学習を開催し県内高校へ積極的に情報発信を行った。 さらに、県教育委員会及び企業との4者における教育事業連携協定を締結することで、相互の知的・人的資源を活用した取組みを行い高大連携を深めていくこととした。																							
（令和７年度実績） ・県教育委員会との連絡協議会を開催し、高大連携等に関する意見交換を行った。また、出前講義、一日大学生、高大連携理科実験、文理探究科研修の受入れなどの体験学習を開催し県内高校へ積極的に情報発信を行った。																							
（令和８年度実績） ・																							
（令和９年度実績） ・																							
（令和１０年度実績） ・																							
	④令和４年度入試から実施した現 行の入試制度の検証を進め、その 検証結果及び高校教育の動向を踏 まえ、学校推薦型選抜等の入試制 度の見直しを検討する。		●達成水準④ ◆各年度の取組の目安 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>・入試制度の検証及び見直しの検討</td><td>・入試制度の検証及び見直しの検討</td><td>・入試制度の検証及び見直しの検討</td><td>・入試制度の検証及び見直しの検討</td><td>・入試制度の検証及び見直しの検討</td><td>・入試制度の検証及び見直しの検討</td></tr></table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 <table><tr><td>（令和５年度実績） ・各学科及び全学入試委員会が入試制度の見直しを検討し、3月に決定したものを公表した。</td></tr><tr><td>（令和６年度実績） ・総合型選抜及び学校推薦型選抜について、志願者数、推薦者数、合格者数の推移を分析するとともに、入試連絡会や県教育委員会との協議会を通じて聴取した高校側の意見や学科からの要望等を踏まえ、一部学科の学校推薦型選抜の見直しを行った。</td></tr><tr><td>（令和７年度実績） ・入試連絡会や県教育委員会との連絡協議会を通じて高校側の意見等を聴取するとともに、総合型選抜及び学校推薦型選抜の検証結果に基づいた学科からの要望等も踏まえ、志願者確保や受験生の負担軽減等を目的として4学科の総合型選抜及び学校推薦型選抜の一部見直しを行った。</td></tr><tr><td>（令和８年度実績） ・</td></tr><tr><td>（令和９年度実績） ・</td></tr><tr><td>（令和１０年度実績） ・</td></tr></table> ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・入試制度の検証及び見直しの検討	・入試制度の検証及び見直しの検討	・入試制度の検証及び見直しの検討	・入試制度の検証及び見直しの検討	・入試制度の検証及び見直しの検討	・入試制度の検証及び見直しの検討	（令和５年度実績） ・各学科及び全学入試委員会が入試制度の見直しを検討し、3月に決定したものを公表した。	（令和６年度実績） ・総合型選抜及び学校推薦型選抜について、志願者数、推薦者数、合格者数の推移を分析するとともに、入試連絡会や県教育委員会との協議会を通じて聴取した高校側の意見や学科からの要望等を踏まえ、一部学科の学校推薦型選抜の見直しを行った。	（令和７年度実績） ・入試連絡会や県教育委員会との連絡協議会を通じて高校側の意見等を聴取するとともに、総合型選抜及び学校推薦型選抜の検証結果に基づいた学科からの要望等も踏まえ、志願者確保や受験生の負担軽減等を目的として4学科の総合型選抜及び学校推薦型選抜の一部見直しを行った。	（令和８年度実績） ・	（令和９年度実績） ・	（令和１０年度実績） ・		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																		
・入試制度の検証及び見直しの検討	・入試制度の検証及び見直しの検討	・入試制度の検証及び見直しの検討	・入試制度の検証及び見直しの検討	・入試制度の検証及び見直しの検討	・入試制度の検証及び見直しの検討																		
（令和５年度実績） ・各学科及び全学入試委員会が入試制度の見直しを検討し、3月に決定したものを公表した。																							
（令和６年度実績） ・総合型選抜及び学校推薦型選抜について、志願者数、推薦者数、合格者数の推移を分析するとともに、入試連絡会や県教育委員会との協議会を通じて聴取した高校側の意見や学科からの要望等を踏まえ、一部学科の学校推薦型選抜の見直しを行った。																							
（令和７年度実績） ・入試連絡会や県教育委員会との連絡協議会を通じて高校側の意見等を聴取するとともに、総合型選抜及び学校推薦型選抜の検証結果に基づいた学科からの要望等も踏まえ、志願者確保や受験生の負担軽減等を目的として4学科の総合型選抜及び学校推薦型選抜の一部見直しを行った。																							
（令和８年度実績） ・																							
（令和９年度実績） ・																							
（令和１０年度実績） ・																							

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等												
	⑤渡日前入試を実施する。		●達成水準⑤ ◆各年度の取組の目安 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・渡日前入試の実施</td><td>・渡日前入試の実施</td><td>・渡日前入試の実施</td><td>・渡日前入試の実施</td><td>・渡日前入試の実施</td><td>・渡日前入試の実施</td></tr> </tbody> </table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 （令和５年度実績） ・ベトナム国内にて全ての学科で渡日前入試を計画し積極的な広報活動を行い、令和５年度は１名が志願した。しかし、志願者が出願要件を満たしておらず出願取消となったため入試の実施には至らなかった。 （令和６年度実績） ・渡日前入試をオンラインで実施する方法へ見直しを行い、各国からの出願が可能となった。海外の日本語学科や日本法人への実施案内、英語、ベトナム語のポスターを作成しHPに掲載するなど積極的な広報活動を行ったが、志願者が０名だったため入試の実施には至らなかった。 （令和７年度実績） ・６名の志願者があり、５名に対して渡日前入試を実施した。オンラインでの面接を実施し３名が合格となった。昨年度よりオンラインで実施する方法へ見直しを行い、各国からの出願が可能となったことについて、海外の日本語学校や日本法人への実施案内、ポスターのHP掲載などの広報活動により浸透してきたことが一因と考える。 （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 《中期計画の達成状況》 【途中評価（４年目終了時）】 <令和５～８年度の実績の概要> ・ <令和９～１０年度 of 取組予定・中期計画の達成見込> ・ 【期間評価（６年目終了時）】 <令和５～１０年度の実績の概要> ・	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・渡日前入試の実施	・渡日前入試の実施	・渡日前入試の実施	・渡日前入試の実施	・渡日前入試の実施	・渡日前入試の実施		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度												
・渡日前入試の実施	・渡日前入試の実施	・渡日前入試の実施	・渡日前入試の実施	・渡日前入試の実施	・渡日前入試の実施												

I	大学の教育研究の質の向上及び地域貢献に関する目標
2	研究に関する目標

中期目標	（８） 産学官連携の共同研究の推進 地域の社会課題の解決のため、民間企業、研究機関、自治体等との連携・共同研究・受託研究を推進する。 また、情報セキュリティ産学共同研究センターにおいては、産学の共創の場として、先進的な研究に取り組む。 （９） 研究水準の向上と成果の公表 国内外の大学等との共同研究の推進等により、研究水準の向上を図るとともに、研究成果を積極的に公表し、社会に還元する。
------	---

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価※（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																								
（８）産学官連携の共同研究の推進 【13】地域連携センターを中心に、企業、自治体等との連携・研究のマッチングなどを行い、本学の強み・特色を生かした共同研究・受託研究を推進する。	①共同研究と受託研究の合計件数 25件（毎年度）		≪達成水準の取組状況≫ ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td>25件</td><td>25件</td><td>25件</td><td>25件</td><td>25件</td><td>25件</td></tr> </table> ◆各年度の実績 <table> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td>20件</td><td>24件</td><td>25件</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> ＜補足（令和５年度）＞ 研究シーズの大学ホームページ掲載や地域連携センターパンフレットの配付、D-FLAGでの企業面談など研究推進やマッチングに向けた取組を行った。令和６年度以降は、シーズ集を冊子化し地域連携センターパンフレットと一緒に県内各所に送付することで研究内容の周知に努める。 ＜補足（令和６年度）＞ 県内自治体等を中心に冊子化した研究シーズ集を送付するとともに、本学との共同・受託研究の案内資料を作成しフォーラム等での呼びかけに利用した。また、学会での発表や受賞情報等を大学ホームページへ積極的に掲載することで、教員の研究成果の周知を図った。D-FLAGを通じてニーズの確認を行うことで、複数の学科が連携して行う事業の調整が進んでいる。 ≪中期計画の達成状況≫ 【途中評価（４年目終了時）】 ＜令和５～８年度の実績の概要＞ ・ ＜令和９～１０年度の取組予定・中期計画の達成見込＞ ・ 【期間評価（６年目終了時）】 ＜令和５～１０年度の実績の概要＞ ・	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	25件	25件	25件	25件	25件	25件	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	20件	24件	25件					
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																								
25件	25件	25件	25件	25件	25件																								
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																								
20件	24件	25件																											
【14】情報セキュリティ産学共同研究センターにおいて、企業等と連携し、産学の共創の場として学術的・先進的な研究に取り組む。	①共同研究数 39件（令和７年度までの累計）		≪達成水準の取組状況≫ ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td>11件</td><td>25件</td><td>39件</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> </table> ◆各年度の実績 <table> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td>25件（25件）</td><td>46件（21件）</td><td>68件（22件）</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> 累計（単年度） ＜補足＞ ※特筆すべき事項がある場合や達成できない場合に記載すること。 ≪中期計画の達成状況≫ 【途中評価（４年目終了時）】 ＜令和５～８年度の実績の概要＞ ・ ＜令和９～１０年度の取組予定・中期計画の達成見込＞ ・	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	11件	25件	39件	—	—	—	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	25件（25件）	46件（21件）	68件（22件）					
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																								
11件	25件	39件	—	—	—																								
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																								
25件（25件）	46件（21件）	68件（22件）																											

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価※（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																																																																																																												
			【期間評価（６年目終了時）】 <令和５～１０年度の実績の概要> 																																																																																																														
（９）研究水準の向上と成果の公表 【15】国内外の大学等との共同研究の推進等により、研究水準の向上を図る。また、研究成果等を積極的に公表する。	①国内外の大学等の研究者などとの共著による研究論文発表数 30件（毎年度） ②研究論文数、学会発表数、著書数は第３期中期計画の達成水準を維持し、これに加えて研究水準の指標として論文の筆頭著者（ファーストオーサー）やコレスポンディングオーサーの数及び学会におけるゲストスピーカーやパネリストの数について次の水準を確保する（毎年度）。 【研究論文数、学会発表数、著書数】 ・欧文学術誌発表論文数 40件 ・邦文学術誌発表論文数 55件 ・国際的な学会発表数 40件 ・全国規模の学会発表数 145件 ・著書数（欧文・邦文） 25件 【研究水準の指標】 ・欧文学術誌発表論文における単著、筆頭著者、コレスポンディングオーサー数 ８件 ・邦文学術誌発表論文における単著、筆頭著者、コレスポンディングオーサー数 ８件 ・国際的な学会発表における筆頭著者数 ５件 ・国際的な学会におけるゲストスピーカーやパネリスト ２件 ・全国規模の学会におけるゲストスピーカーやパネリスト 10件		<<達成水準の取組状況>> ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table> <tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr><td>30件</td><td>30件</td><td>30件</td><td>30件</td><td>30件</td><td>30件</td></tr> </table> ◆各年度の実績 <table> <tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr><td>69件</td><td>66件</td><td>89件</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> ●達成水準② ◆各年度の取組の目安 <table> <tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td>・【研究論文数、学会発表数、著書数】及び【研究水準の指標】が左記の件数以上</td><td>・【研究論文数、学会発表数、著書数】及び【研究水準の指標】が左記の件数以上</td><td>・【研究論文数、学会発表数、著書数】及び【研究水準の指標】が左記の件数以上</td><td>・【研究論文数、学会発表数、著書数】及び【研究水準の指標】が左記の件数以上</td><td>・【研究論文数、学会発表数、著書数】及び【研究水準の指標】が左記の件数以上</td><td>・【研究論文数、学会発表数、著書数】及び【研究水準の指標】が左記の件数以上</td></tr> </table> ◆各年度の実績 <table> <tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr><td>67件</td><td>63件</td><td>67件</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>104件</td><td>128件</td><td>113件</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>59件</td><td>49件</td><td>51件</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>190件</td><td>203件</td><td>249件</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>42件</td><td>29件</td><td>51件</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> 【研究論文数、学会発表数、著書数】 <table> <tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr><td>43件</td><td>45件</td><td>41件</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>77件</td><td>96件</td><td>87件</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>30件</td><td>33件</td><td>31件</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5件</td><td>2件</td><td>1件</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>19件</td><td>25件</td><td>30件</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> 欧文学術誌発表論文数 邦文学術誌発表論文数 国際的な学会発表数 全国規模の学会発表数 著書数（欧文・邦文） 欧文学術誌発表論文における単著、筆頭著者、コレスポンディングオーサー数 邦文学術誌発表論文における単著、筆頭著者、コレスポンディングオーサー数 国際的な学会発表における筆頭著者数 国際的な学会におけるゲストスピーカーやパネリスト 全国規模の学会におけるゲストスピーカーやパネリスト <補足> ※特筆すべき事項がある場合や達成できない場合に記載すること。	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	30件	30件	30件	30件	30件	30件	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	69件	66件	89件				R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・【研究論文数、学会発表数、著書数】及び【研究水準の指標】が左記の件数以上	・【研究論文数、学会発表数、著書数】及び【研究水準の指標】が左記の件数以上	・【研究論文数、学会発表数、著書数】及び【研究水準の指標】が左記の件数以上	・【研究論文数、学会発表数、著書数】及び【研究水準の指標】が左記の件数以上	・【研究論文数、学会発表数、著書数】及び【研究水準の指標】が左記の件数以上	・【研究論文数、学会発表数、著書数】及び【研究水準の指標】が左記の件数以上	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	67件	63件	67件				104件	128件	113件				59件	49件	51件				190件	203件	249件				42件	29件	51件				R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	43件	45件	41件				77件	96件	87件				30件	33件	31件				5件	2件	1件				19件	25件	30件					
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																																																																												
30件	30件	30件	30件	30件	30件																																																																																																												
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																																																																												
69件	66件	89件																																																																																																															
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																																																																												
・【研究論文数、学会発表数、著書数】及び【研究水準の指標】が左記の件数以上	・【研究論文数、学会発表数、著書数】及び【研究水準の指標】が左記の件数以上	・【研究論文数、学会発表数、著書数】及び【研究水準の指標】が左記の件数以上	・【研究論文数、学会発表数、著書数】及び【研究水準の指標】が左記の件数以上	・【研究論文数、学会発表数、著書数】及び【研究水準の指標】が左記の件数以上	・【研究論文数、学会発表数、著書数】及び【研究水準の指標】が左記の件数以上																																																																																																												
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																																																																												
67件	63件	67件																																																																																																															
104件	128件	113件																																																																																																															
59件	49件	51件																																																																																																															
190件	203件	249件																																																																																																															
42件	29件	51件																																																																																																															
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																																																																												
43件	45件	41件																																																																																																															
77件	96件	87件																																																																																																															
30件	33件	31件																																																																																																															
5件	2件	1件																																																																																																															
19件	25件	30件																																																																																																															

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価※（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等												
	③大学ホームページや学術リポジトリなど様々な媒体やシンポジウムなどを通して、研究の成果等を積極的に公表する。		●達成水準③ ◆各年度の取組の目安 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・研究の成果等の公表</td><td>・研究の成果等の公表</td><td>・研究の成果等の公表</td><td>・研究の成果等の公表</td><td>・研究の成果等の公表</td><td>・研究の成果等の公表</td></tr> </tbody> </table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 （令和５年度実績） ・学術リポジトリに学長裁量教育研究費や論集、東アジア評論などの研究成果を掲載するとともに学会での発表や論文などの各種受賞情報をホームページで積極的に公表した。 （令和６年度実績） ・学術リポジトリに学長裁量教育研究費や論集、国際研究評論などの研究成果を掲載した。さらに大学案内で研究ピックアップとして各学科1件ずつの掲載や、国際的研究として大学院生を含め10件の研究紹介を掲載するなど積極的に成果の公表を行った。 （令和７年度実績） ・学術リポジトリに学長裁量教育研究費や論集、国際研究評論などの研究成果を掲載した。さらに教員の研究活動、成果を年間を通して大学の公式サイトやSNS等で積極的に発信し、国際的研究として大学院生を含め17件の研究紹介を掲載するなど積極的に成果の公表を行った。 （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 ≪中期計画の達成状況≫ 【途中評価（４年目終了時）】 <令和５～８年度の実績の概要> ・ <令和９～１０年度の実績の概要> ・ 【期間評価（６年目終了時）】 <令和５～１０年度の実績の概要> ・	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・研究の成果等の公表	・研究の成果等の公表	・研究の成果等の公表	・研究の成果等の公表	・研究の成果等の公表	・研究の成果等の公表		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度												
・研究の成果等の公表	・研究の成果等の公表	・研究の成果等の公表	・研究の成果等の公表	・研究の成果等の公表	・研究の成果等の公表												

I	大学の教育研究の質の向上及び地域貢献に関する目標
3	地域貢献に関する目標

中期目標	(10) 地域との連携の強化 自治体や民間企業等との連携を深め、地域のシンクタンクとして研究、提案・協力を積極的に進める。 また、情報セキュリティ産学共同研究センターを活用し、地域のニーズに応える研究や優秀な人材の育成に積極的に取り組み、即戦力となる最先端のセキュリティ人材や地域に貢献できる人材を輩出するとともに、地元産業の振興や企業誘致との連携を図る。 (11) 教育研究成果等の地域への積極的な還元及び県民への学びの機会の提供 地域経済の発展、県民の健康・生活・文化の向上に貢献するため、教育研究の成果等を地域社会に積極的に還元する。 また、佐世保校の新キャンパス整備を契機として、大学一体となってさらに県民の生涯学習の拠点として、地域に開かれた大学としての取組を推進するとともに、リカレント教育の強化を図る。
------	--

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価※（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																								
(10) 地域との連携の強化 【16】地域のシンクタンクとして、自治体・民間企業等との研究や自治体等の各種委員会・審議会の委員への就任、地域企業・医療機関・職能団体等の研修への講師派遣等の依頼、自治体等からのプロジェクト協力要請に積極的に応じ、学術機関としての知見の還元や関係者の専門性の向上に寄与する。	①自治体等の各種委員会・審議会の委員への就任及び研修への講師派遣 350件（毎年度）		≪達成水準の取組状況≫ ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td>350件</td><td>350件</td><td>350件</td><td>350件</td><td>350件</td><td>350件</td></tr> </table> ◆各年度の実績 <table> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td>411件</td><td>354件</td><td>423件</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 ≪中期計画の達成状況≫ 【途中評価（４年目終了時）】 <令和５～８年度の実績の概要> ・ <令和９～１０年度の取組予定・中期計画の達成見込> ・ 【期間評価（６年目終了時）】 <令和５～１０年度の実績の概要> ・	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	350件	350件	350件	350件	350件	350件	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	411件	354件	423件					
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																								
350件	350件	350件	350件	350件	350件																								
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																								
411件	354件	423件																											
【17】情報セキュリティ産学共同研究センターにおいて、県や企業等と連携した実践的な教育を行い、即戦力となる最先端のセキュリティ人材の育成や県内産業の振興に貢献する。 また、リカレント教育や地域のニーズに応える研究を行い、地元産業の振興、人材育成に貢献する。	①即戦力となる最先端のセキュリティ人材を育成するため、企業等と連携した実践的な教育を行う。		≪達成水準の取組状況≫ ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td>・知的財産等の取り扱いについて調査、検討</td><td>・企業等と連携した実践的な教育の実施</td><td>・企業等と連携した実践的な教育の実施</td><td>・企業等と連携した実践的な教育の実施</td><td>・企業等と連携した実践的な教育の実施</td><td>・企業等と連携した実践的な教育の実施</td></tr> </table> ◆各年度の実績 <table> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td colspan="6"> ※実績報告書において、実施した教育が即戦力となる最先端のセキュリティ人材の育成や県内産業の振興に繋がる内容であったことがわかるように記載 </td></tr> </table> 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 （令和５年度実績） ・企業との共同研究等において積極的に学生を参加させ、企業等が実際に抱える課題に取り組ませることで即戦力となるセキュリティ人材の育成に繋がった。知的財産の取り扱いについては、共同研究等に参加する学生への機密保持の誓約書の取扱いとともに整備を進めていたが、より状況等を整理したうえでの対応が必要との判断になり、令和６年度以降、他大学の状況を調査し全学的に規程等を整備する方向で別途調整することとなった。 （令和６年度実績） ・企業との共同研究等において積極的に学生を参加させ、企業等が実際に抱える課題に取り組ませることで即戦力となるセキュリティ人材の育成に繋がった。また、「長崎県公立大学法人学生等発明等取扱規程」を令和7年4月1日施行で制定し、より学生が企業等との取組みに参加しやすい体制を整えた。 （令和７年度実績） ・企業との共同研究等において積極的に学生を参加させ、企業等が実際に抱える課題に取り組ませることで即戦力となるセキュリティ人材の育成に繋がった。令和7年度においては、学生が発明者として加わった研究事例が2件生じ、特許取得等の手続きを進めている。 （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・知的財産等の取り扱いについて調査、検討	・企業等と連携した実践的な教育の実施	・企業等と連携した実践的な教育の実施	・企業等と連携した実践的な教育の実施	・企業等と連携した実践的な教育の実施	・企業等と連携した実践的な教育の実施	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	※実績報告書において、実施した教育が即戦力となる最先端のセキュリティ人材の育成や県内産業の振興に繋がる内容であったことがわかるように記載							
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																								
・知的財産等の取り扱いについて調査、検討	・企業等と連携した実践的な教育の実施	・企業等と連携した実践的な教育の実施	・企業等と連携した実践的な教育の実施	・企業等と連携した実践的な教育の実施	・企業等と連携した実践的な教育の実施																								
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																								
※実績報告書において、実施した教育が即戦力となる最先端のセキュリティ人材の育成や県内産業の振興に繋がる内容であったことがわかるように記載																													

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価※（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等												
	②情報セキュリティ分野等におけるリカレント教育を実施する。		※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 ●達成水準② ◆各年度の取組の目安 <table border="1" data-bbox="1124 300 2139 430"> <thead> <tr> <th>R 5 年度</th> <th>R 6 年度</th> <th>R 7 年度</th> <th>R 8 年度</th> <th>R 9 年度</th> <th>R 1 0 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・県内企業等における要望等の情報収集、実施に向けた検討</td> <td>・リカレント教育の実施</td> <td>・リカレント教育の実施</td> <td>・リカレント教育の実施</td> <td>・リカレント教育の実施</td> <td>・リカレント教育の実施</td> </tr> </tbody> </table> ※実績報告書において、地元産業の振興、人材育成にどう貢献したかがわかるように記載 ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 （令和５年度実績） ・長崎県が実施するサイバーセキュリティ人材育成講座に参加した県内企業に対しアンケート調査を実施し、リカレント講座の要望等の情報収集を行った。今後、要望を踏まえ実施内容についての検討を進めていく。 （令和６年度実績） ・セキュリティ人材育成を支援する企業と連携し、銀行等所属の社会人5名を科目等履修生として受入れ、本学の学部科目である「ネットワークセキュリティ応用」と「インシデントハンドリング」の科目を開講し、ネットワークセキュリティの基本知識やインシデント発生時の対処の基礎を学ぶことができるリカレント教育を実施した。 （令和７年度実績） ・セキュリティ人材育成を支援する企業と連携し、銀行等所属の社会人を前期6名、後期4名科目等履修生として受入れ、本学の学部科目である「ネットワークセキュリティ応用」や「インシデントハンドリング」、「脆弱性検査技法」などの科目を通じて、ネットワークセキュリティの基本知識やインシデント発生時の対処の基礎を学ぶことができるリカレント教育を実施した。 （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 ≪中期計画の達成状況≫ 【途中評価（４年目終了時）】 <令和５～８年度の実績の概要> ・ <令和９～１０年度取組予定・中期計画の達成見込> ・ 【期間評価（６年目終了時）】 <令和５～１０年度の実績の概要> ・	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・県内企業等における要望等の情報収集、実施に向けた検討	・リカレント教育の実施	・リカレント教育の実施	・リカレント教育の実施	・リカレント教育の実施	・リカレント教育の実施		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度												
・県内企業等における要望等の情報収集、実施に向けた検討	・リカレント教育の実施	・リカレント教育の実施	・リカレント教育の実施	・リカレント教育の実施	・リカレント教育の実施												

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価※（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																																																																																				
(11) 教育研究成果等の地域への積極的な還元及び県民への学びの機会の提供 【18】企業等向けのセミナーや一般県民向けの公開講座等の開催などにより教育研究成果等を地域社会に積極的に還元する。 また、地域に開かれた大学としてリカレント教育の強化に取り組むとともに、佐世保校の新校舎（地域交流棟）整備を契機に、大学一体となった生涯学習への支援をさらに推進する。	①セミナーや公開講座等を開催する。また、公開講座等のメニューを県民ニーズに合った講座とするため毎年度、検証及び改善を行い、講座の充実を図る。 ・企業等向けセミナー 10回（毎年度） なお、令和10年度には15回を目指す。 ・公開講座の開催回数 10回（毎年度） ・公開講座 アンケート満足度85%（毎年度） ②大学の授業科目を広く県民に公開するため、聴講生及び科目等履修生の募集広報を積極的に行う。また、地域のニーズを踏まえたりカレント教育向けの公開講座を開催する。 ・リカレント教育向け公開講座5講座（毎年度） ③地域交流棟については、県民の生涯学習や大学と地域の交流の場として令和7年度から本格的に活用する。	目標期間中の自己評価※（）内は途中評価結果（R5～R8）	＜達成水準の取組状況＞ ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・セミナー10回 ・公開講座10回 ・アンケート満足度85%</td><td>・セミナー10回 ・公開講座10回 ・アンケート満足度85%</td><td>・セミナー10回 ・公開講座10回 ・アンケート満足度85%</td><td>・セミナー10回 ・公開講座10回 ・アンケート満足度85%</td><td>・セミナー10回 ・公開講座10回 ・アンケート満足度85%</td><td>・セミナー15回 ・公開講座10回 ・アンケート満足度85%</td></tr> </tbody> </table> ◆各年度の実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>14回</td><td>18回</td><td>16回</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>10回</td><td>10回</td><td>10回</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>97.0%</td><td>99.5%</td><td>98.0%</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> 【途中評価（4年目終了時）】 【期間評価（6年目終了時）】 企業等向けセミナー 開催回数 公開講座 開催回数 公開講座 アンケート満足度 ＜補足（令和7年度）＞ 公開講座の1講座については、教員の体調不良により急遽中止とせざるを得なかったため、オンデマンドで過去の講座動画を配信することで対応した。 ※特筆すべき事項がある場合や達成できない場合に記載すること。 ●達成水準② ◆各年度の取組の目安 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5講座</td><td>5講座</td><td>5講座</td><td>5講座</td><td>5講座</td><td>5講座</td></tr> </tbody> </table> ◆各年度の実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5講座</td><td>5講座</td><td>5講座</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> 【途中評価（4年目終了時）】 【期間評価（6年目終了時）】 ＜補足＞ ※特筆すべき事項がある場合や達成できない場合に記載すること。 ●達成水準③ ◆各年度の取組の目安 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・地域交流棟の活用に向けた検討</td><td>・地域交流棟の活用方法の決定</td><td>・地域交流棟の活用</td><td>・地域交流棟の活用</td><td>・地域交流棟の活用</td><td>・地域交流棟の活用</td></tr> </tbody> </table> ◆各年度の実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(令和5年度実績) ・地域交流棟の活用について検討し、地域公開講座の会場として利用を開始した。</td><td>(令和6年度実績) ・公開講座、学術講演会、リカレント講座などの生涯学習の場として活用した。</td><td>(令和7年度実績) ・公開講座、学術講演会、リカレント講座などの生涯学習の場として活用した。</td><td>(令和8年度実績) ・</td><td>(令和9年度実績) ・</td><td>(令和10年度実績) ・</td></tr> </tbody> </table> ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・セミナー10回 ・公開講座10回 ・アンケート満足度85%	・セミナー10回 ・公開講座10回 ・アンケート満足度85%	・セミナー10回 ・公開講座10回 ・アンケート満足度85%	・セミナー10回 ・公開講座10回 ・アンケート満足度85%	・セミナー10回 ・公開講座10回 ・アンケート満足度85%	・セミナー15回 ・公開講座10回 ・アンケート満足度85%	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	14回	18回	16回				10回	10回	10回				97.0%	99.5%	98.0%				R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	5講座	5講座	5講座	5講座	5講座	5講座	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	5講座	5講座	5講座				R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・地域交流棟の活用に向けた検討	・地域交流棟の活用方法の決定	・地域交流棟の活用	・地域交流棟の活用	・地域交流棟の活用	・地域交流棟の活用	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	(令和5年度実績) ・地域交流棟の活用について検討し、地域公開講座の会場として利用を開始した。	(令和6年度実績) ・公開講座、学術講演会、リカレント講座などの生涯学習の場として活用した。	(令和7年度実績) ・公開講座、学術講演会、リカレント講座などの生涯学習の場として活用した。	(令和8年度実績) ・	(令和9年度実績) ・	(令和10年度実績) ・		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																																																				
・セミナー10回 ・公開講座10回 ・アンケート満足度85%	・セミナー10回 ・公開講座10回 ・アンケート満足度85%	・セミナー10回 ・公開講座10回 ・アンケート満足度85%	・セミナー10回 ・公開講座10回 ・アンケート満足度85%	・セミナー10回 ・公開講座10回 ・アンケート満足度85%	・セミナー15回 ・公開講座10回 ・アンケート満足度85%																																																																																				
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																																																				
14回	18回	16回																																																																																							
10回	10回	10回																																																																																							
97.0%	99.5%	98.0%																																																																																							
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																																																				
5講座	5講座	5講座	5講座	5講座	5講座																																																																																				
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																																																				
5講座	5講座	5講座																																																																																							
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																																																				
・地域交流棟の活用に向けた検討	・地域交流棟の活用方法の決定	・地域交流棟の活用	・地域交流棟の活用	・地域交流棟の活用	・地域交流棟の活用																																																																																				
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																																																				
(令和5年度実績) ・地域交流棟の活用について検討し、地域公開講座の会場として利用を開始した。	(令和6年度実績) ・公開講座、学術講演会、リカレント講座などの生涯学習の場として活用した。	(令和7年度実績) ・公開講座、学術講演会、リカレント講座などの生涯学習の場として活用した。	(令和8年度実績) ・	(令和9年度実績) ・	(令和10年度実績) ・																																																																																				

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価※（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等														
			≪中期計画の達成状況≫ 【途中評価（４年目終了時）】 ＜令和５～８年度の実績の概要＞ ・ ＜令和９～１０年度 of 取組予定・中期計画の達成見込＞ ・ 【期間評価（６年目終了時）】 ＜令和５～１０年度の実績の概要＞ ・																
【19】地域住民の学びの場として、図書館等の大学施設の開放を行う。	①地域等に有効に活用されるよう、教育研究等の大学運営に支障のない範囲内で、図書館、講義室、体育館等の大学施設を積極的に開放する。		≪達成水準の取組状況≫ ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table><tr><td>R５年度</td><td>R６年度</td><td>R７年度</td><td>R８年度</td><td>R９年度</td><td>R１０年度</td></tr><tr><td>・大学施設の開放</td><td>・大学施設の開放</td><td>・大学施設の開放</td><td>・大学施設の開放</td><td>・大学施設の開放</td><td>・大学施設の開放</td></tr></table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 <table><tr><td></td></tr></table> 【期間評価（６年目終了時）】 <table><tr><td></td></tr></table> （令和５年度実績） ・地域住民（学外者）には、令和5年度より特段の制限を設けず施設の開放を行った。ただし、シーボルト校図書館においては他施設と異なり、館内での学生との接触機会が多いため実習を控えた看護等の学生の感染リスクを考慮し時短での開放としている。 （令和６年度実績） ・令和6年10月よりシーボルト校図書館も立入制限を解除し、両キャンパスともコロナ禍前の状態に戻り開放を行った。 （令和７年度実績） ・学内の活動に支障のない範囲で地域住民等への施設開放を行った。令和7年度は、佐世保校の講義棟の完成により7月から貸出しが可能となった。図書館についても、学外者への貸出しや高校生の見学の受入れなどの解放を行っている。 （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 ≪中期計画の達成状況≫ 【途中評価（４年目終了時）】 ＜令和５～８年度の実績の概要＞ ・ ＜令和９～１０年度 of 取組予定・中期計画の達成見込＞ ・ 【期間評価（６年目終了時）】 ＜令和５～１０年度の実績の概要＞ ・	R５年度	R６年度	R７年度	R８年度	R９年度	R１０年度	・大学施設の開放	・大学施設の開放	・大学施設の開放	・大学施設の開放	・大学施設の開放	・大学施設の開放				
R５年度	R６年度	R７年度	R８年度	R９年度	R１０年度														
・大学施設の開放	・大学施設の開放	・大学施設の開放	・大学施設の開放	・大学施設の開放	・大学施設の開放														

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

中期目標

(12) 大学運営の基盤強化
機動的かつ効率的な法人運営を行うために、理事長と学長がリーダーシップを発揮しやすい体制を整備するとともに、すべての教職員が役割を発揮し協働するガバナンスを推進するため、ＩＲや各部局の機能の充実を図る。

(13) 教員評価制度の検証と見直し
現行の教員評価制度の妥当性を検証し、必要に応じて制度の見直しを図る。

(14) 教職員等の法令遵守（コンプライアンス）及びリスク管理
県立大学として、地域社会の期待と信頼を損なわないために、教職員の法令遵守（コンプライアンス）やリスク管理、情報セキュリティ対策を徹底するとともに、学生に対してもその啓発を行う。

(15) 大学の今後のあり方の検討
学部学科再編等の教育改革の点検・検証を踏まえ、大学を取り巻く情勢の変化を見据えて、予測困難な社会に対応する文理融合型の学びの実現や長崎県の発展に寄与する新学科等に関する検討も含め、大学の今後のあり方を検討する。
また、大学間の連携等を推進し効果的・効率的な大学運営による教育機能等の拡充を図る。

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価※（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																								
(12) 大学運営の基盤強化 【20】法人・大学の重要課題に的確かつ機動的に対応するため、IR及び各部局がその機能を十分に発揮できるよう理事長・学長の指示系統を明確にし、部局横断的な協働体制を強化する。	①理事長・学長が方針決定の根拠とするため、情報収集やIRによるデータ分析等を指示し、その報告を受け、方針の実現を図る体制を令和5年度中に検討し、設置する。 ②各部局が役割を十分発揮できるよう、理事会、経営協議会、教育研究評議会等の情報を学内に積極的に共有するとともに、教職員において適切な役割分担を行い、協働を促進する。		≪達成水準の取組状況≫ ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>R8年度</th><th>R9年度</th><th>R10年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・体制の検討、設置</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ◆各年度の実績 【途中評価（4年目終了時）】 【期間評価（6年目終了時）】 （令和5年度実績） 今後の諸課題に対応する方針を決定するため、理事長、学長、両校副学長及び両校事務局長をメンバーとする体制を整え、そこで議論した方針を法人及び大学内の組織に伝え、検討を指示した。 （令和6年度実績） 令和6年度においては、新理事長が着任し法人・大学の運営体制について新たに検討した。令和7年度より理事長室の設置やIR機能強化のための人員を配置するなど新たな体制で取組んでいく。 （令和7年度実績） 法人の経営戦略に基づき、学内の部局横断的な大学改革を推進するため、令和7年4月に理事長室を設置した。加えてIRをはじめとして法人、大学の運営や課題に助言・指導を受けるため、専門知識をもった人材を顧問、参与に任命した。さらに、令和8年度から理事長、学長及び専務理事で構成する経営戦略本部を設置し、その下に客観的なデータに基づく法人経営及び大学運営の体制構築並びに高度化を図る事項を推進し、経営層の迅速かつ的確な意思決定を支援することを目的する「戦略リサーチプロジェクトチーム」を設けることを決定した。 （令和8年度実績） ・ （令和9年度実績） ・ （令和10年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 ●達成水準② ◆各年度の取組の目安 <table border="1"> <thead> <tr> <th>R5年度</th><th>R6年度</th><th>R7年度</th><th>R8年度</th><th>R9年度</th><th>R10年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・理事会等の情報の学内での共有 ・教職員における協働</td><td>・理事会等の情報の学内での共有 ・教職員における協働</td><td>・理事会等の情報の学内での共有 ・教職員における協働</td><td>・理事会等の情報の学内での共有 ・教職員における協働</td><td>・理事会等の情報の学内での共有 ・教職員における協働</td><td>・理事会等の情報の学内での共有 ・教職員における協働</td></tr> </tbody> </table> ◆各年度の実績 【途中評価（4年目終了時）】 【期間評価（6年目終了時）】 （令和5年度実績） ・各会議の議事録を学内に共有するとともに大学ホームページにも公表した。また、教職員において適切な役割分担を行い、学内委員会を教職協働で開催した。 （令和6年度実績） ・各会議の議事録を学内に共有するとともに大学ホームページにも公表した。また、教職員において適切な役割分担を行い、学内委員会を教職協働で開催した。 （令和7年度実績） ・各会議の議事録を学内に共有するとともに大学ホームページにも公表した。また、教職員において適切な役割分担を行い、学内委員会を教職協働で開催した。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	・体制の検討、設置						R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	・理事会等の情報の学内での共有 ・教職員における協働	・理事会等の情報の学内での共有 ・教職員における協働	・理事会等の情報の学内での共有 ・教職員における協働	・理事会等の情報の学内での共有 ・教職員における協働	・理事会等の情報の学内での共有 ・教職員における協働	・理事会等の情報の学内での共有 ・教職員における協働		
R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度																								
・体制の検討、設置																													
R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度																								
・理事会等の情報の学内での共有 ・教職員における協働	・理事会等の情報の学内での共有 ・教職員における協働	・理事会等の情報の学内での共有 ・教職員における協働	・理事会等の情報の学内での共有 ・教職員における協働	・理事会等の情報の学内での共有 ・教職員における協働	・理事会等の情報の学内での共有 ・教職員における協働																								

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価※（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等												
			（令和8年度実績） ・ （令和9年度実績） ・ （令和10年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 《中期計画の達成状況》 【途中評価（4年目終了時）】 <令和5～8年度の実績の概要> ・ <令和9～10年度 of 取組予定・中期計画の達成見込> ・ 【期間評価（6年目終了時）】 <令和5～10年度の実績の概要> ・														
(13) 教員評価制度の検証と見直し 【21】教育・研究・社会貢献・大学運営における教員の貢献がよりの確に評価されるよう現行の教員評価制度の妥当性を検証し、必要に応じて制度の見直しを図る。	①教員評価実施基準等の検証・見直しを行う。		《達成水準の取組状況》 ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table><tr><td>R5年度</td><td>R6年度</td><td>R7年度</td><td>R8年度</td><td>R9年度</td><td>R10年度</td></tr><tr><td>・検証の実施及び改善</td><td>・検証の実施及び改善</td><td>・検証の実施及び改善</td><td>・検証の実施及び改善</td><td>・検証の実施及び改善</td><td>・検証の実施及び改善</td></tr></table> ◆各年度の実績 【途中評価（4年目終了時）】 【期間評価（6年目終了時）】 （令和5年度実績） ・各教員からの意見等をもとに教員評価実施基準を点検し、大学院教育や学長による評価部分の見直しを行った。 （令和6年度実績） ・各教員からの意見等をもとに教員評価実施基準を点検し、令和6年度は管理・運営領域の項目を中心に見直しを行った。 （令和7年度実績） ・各教員からの意見等をもとに教員評価実施基準を点検し、令和7年度は社会貢献領域を中心に見直しを行った。 （令和8年度実績） ・ （令和9年度実績） ・ （令和10年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 《中期計画の達成状況》 【途中評価（4年目終了時）】 <令和5～8年度の実績の概要> ・ <令和9～10年度 of 取組予定・中期計画の達成見込> ・ 【期間評価（6年目終了時）】 <令和5～10年度の実績の概要> ・	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	・検証の実施及び改善	・検証の実施及び改善	・検証の実施及び改善	・検証の実施及び改善	・検証の実施及び改善	・検証の実施及び改善		
R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度												
・検証の実施及び改善	・検証の実施及び改善	・検証の実施及び改善	・検証の実施及び改善	・検証の実施及び改善	・検証の実施及び改善												

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価※（ ）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																																																																																				
(14) 教職員等の法令遵守（コンプライアンス）及びリスク管理 【22】法令、学則並びに諸規程（以下、法令等という。）を遵守するよう教職員や学生に啓発を行うとともに、災害や事故等の不測の事態に機動的に対応できるよう安全管理に対する啓発を行う。 また、個人情報や重要情報の保護の観点から情報セキュリティ向上のための取組を行う。	①法令等に違反する行為又はそのおそれがある行為に関する通報・相談（公益通報）窓口を設置するとともに、通報者の保護を図る。また、教職員に対し、リスクマネジメントの観点から、安全管理に関する啓発を行う。 ・教職員のコンプライアンス教育研修受講率 100% ・管理職のハラスメント防止研修会受講率 100% ・教職員の情報セキュリティに関する研修会受講率 100% ②学生に対し、法令遵守（コンプライアンス）及びリスクマネジメントの観点から、安全管理に関する啓発を行う。		≪達成水準の取組状況≫ ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>・各研修の受講率100%</td><td>・各研修の受講率100%</td><td>・各研修の受講率100%</td><td>・各研修の受講率100%</td><td>・各研修の受講率100%</td><td>・各研修の受講率100%</td></tr></table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>100%</td><td>100%</td><td>100%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>100%</td><td>100%</td><td>100%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>100%</td><td>100%</td><td>100%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 【期間評価（６年目終了時）】 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>100%</td><td>100%</td><td>100%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>100%</td><td>100%</td><td>100%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>100%</td><td>100%</td><td>100%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 教職員のコンプライアンス教育研修受講率 管理職のハラスメント防止研修会受講率 教職員の情報セキュリティに関する研修会受講率 <補足（令和５年度）> ・FD研修会や一斉メール等で学長自らハラスメントやコンプライアンス、情報インシデントの防止などの指導・啓発を行うことで教職員全体の意識向上を図った。また、ハラスメント防止研修会については、全学的に実施し欠席者向けに動画共有も行うことで組織的な取組みを行った。 ・令和5年度においては、指導教員から学生に対するアカデミックハラスメントやカラ雇用での研究費の不正使用、しまなびで利用しているシステムへの不正アクセスが起きた。令和6年度以降、法人としてより一層のガバナンスの確保及び教職員の法令遵守及びリスク管理を徹底し、再発防止に努める。 ※特筆すべき事項がある場合や達成できない場合に記載すること。 ●達成水準② ◆各年度の取組の目安 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>・安全管理に関する啓発の実施</td><td>・安全管理に関する啓発の実施</td><td>・安全管理に関する啓発の実施</td><td>・安全管理に関する啓発の実施</td><td>・安全管理に関する啓発の実施</td><td>・安全管理に関する啓発の実施</td></tr></table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>（令和５年度実績） ・年度初めや長期休業期間前に薬物乱用やSNSのトラブル等に関する啓発活動を行うことで、学生の意識向上を図った。</td><td>（令和６年度実績） ・オリエンテーション時に交通法規遵守及び薬物乱用防止、消費者トラブル防止に関する講話を実施した。新入生については、「新入生へのメッセージ（防犯・安全マニュアル）」の配布、闇バイトに関する注意喚起を行うなど、安全管理に関する啓発を行った。また、夏季、冬季休業期間前にはSNS活用のマナー等についての啓発も実施し、学生の意識向上を図った。</td><td>（令和７年度実績） ・オリエンテーション時に交通法規遵守及び薬物乱用防止、オーバードーズ、消費者トラブル防止に関する講話を実施した。新入生については、「新入生へのメッセージ（防犯・安全マニュアル）」の配布、闇バイトに関する注意喚起を行うなど、安全管理に関する啓発を行った。また、夏季、冬季休業期間前にはSNS活用のマナー等についての啓発も実施し、学生の意識向上を図った。 ・学生のコンプライアンス意識向上と、不祥事の未然防止を目的とした「懲戒事例解説動画」を制作した。令和8年度以降、オリエンテーション等で活用していく。</td><td>（令和８年度実績） ・</td><td>（令和９年度実績） ・</td><td>（令和１０年度実績） ・</td></tr></table> ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・各研修の受講率100%	・各研修の受講率100%	・各研修の受講率100%	・各研修の受講率100%	・各研修の受講率100%	・各研修の受講率100%	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	100%	100%	100%				100%	100%	100%				100%	100%	100%				R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	100%	100%	100%				100%	100%	100%				100%	100%	100%				R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・安全管理に関する啓発の実施	・安全管理に関する啓発の実施	・安全管理に関する啓発の実施	・安全管理に関する啓発の実施	・安全管理に関する啓発の実施	・安全管理に関する啓発の実施	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	（令和５年度実績） ・年度初めや長期休業期間前に薬物乱用やSNSのトラブル等に関する啓発活動を行うことで、学生の意識向上を図った。	（令和６年度実績） ・オリエンテーション時に交通法規遵守及び薬物乱用防止、消費者トラブル防止に関する講話を実施した。新入生については、「新入生へのメッセージ（防犯・安全マニュアル）」の配布、闇バイトに関する注意喚起を行うなど、安全管理に関する啓発を行った。また、夏季、冬季休業期間前にはSNS活用のマナー等についての啓発も実施し、学生の意識向上を図った。	（令和７年度実績） ・オリエンテーション時に交通法規遵守及び薬物乱用防止、オーバードーズ、消費者トラブル防止に関する講話を実施した。新入生については、「新入生へのメッセージ（防犯・安全マニュアル）」の配布、闇バイトに関する注意喚起を行うなど、安全管理に関する啓発を行った。また、夏季、冬季休業期間前にはSNS活用のマナー等についての啓発も実施し、学生の意識向上を図った。 ・学生のコンプライアンス意識向上と、不祥事の未然防止を目的とした「懲戒事例解説動画」を制作した。令和8年度以降、オリエンテーション等で活用していく。	（令和８年度実績） ・	（令和９年度実績） ・	（令和１０年度実績） ・		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																																																				
・各研修の受講率100%	・各研修の受講率100%	・各研修の受講率100%	・各研修の受講率100%	・各研修の受講率100%	・各研修の受講率100%																																																																																				
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																																																				
100%	100%	100%																																																																																							
100%	100%	100%																																																																																							
100%	100%	100%																																																																																							
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																																																				
100%	100%	100%																																																																																							
100%	100%	100%																																																																																							
100%	100%	100%																																																																																							
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																																																				
・安全管理に関する啓発の実施	・安全管理に関する啓発の実施	・安全管理に関する啓発の実施	・安全管理に関する啓発の実施	・安全管理に関する啓発の実施	・安全管理に関する啓発の実施																																																																																				
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																																																																				
（令和５年度実績） ・年度初めや長期休業期間前に薬物乱用やSNSのトラブル等に関する啓発活動を行うことで、学生の意識向上を図った。	（令和６年度実績） ・オリエンテーション時に交通法規遵守及び薬物乱用防止、消費者トラブル防止に関する講話を実施した。新入生については、「新入生へのメッセージ（防犯・安全マニュアル）」の配布、闇バイトに関する注意喚起を行うなど、安全管理に関する啓発を行った。また、夏季、冬季休業期間前にはSNS活用のマナー等についての啓発も実施し、学生の意識向上を図った。	（令和７年度実績） ・オリエンテーション時に交通法規遵守及び薬物乱用防止、オーバードーズ、消費者トラブル防止に関する講話を実施した。新入生については、「新入生へのメッセージ（防犯・安全マニュアル）」の配布、闇バイトに関する注意喚起を行うなど、安全管理に関する啓発を行った。また、夏季、冬季休業期間前にはSNS活用のマナー等についての啓発も実施し、学生の意識向上を図った。 ・学生のコンプライアンス意識向上と、不祥事の未然防止を目的とした「懲戒事例解説動画」を制作した。令和8年度以降、オリエンテーション等で活用していく。	（令和８年度実績） ・	（令和９年度実績） ・	（令和１０年度実績） ・																																																																																				

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価※（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等												
			≪中期計画の達成状況≫ 【途中評価（４年目終了時）】 <令和５～８年度の実績の概要> ・ <令和９～１０年度 of 取組予定・中期計画の達成見込> ・ 【期間評価（６年目終了時）】 <令和５～１０年度の実績の概要> ・														
(15) 大学の今後のあり方の検討 【23】平成28年度に実施した学部学科再編や実践教育を重視した教育課程導入等の教育改革について点検・検証を行うとともに、学部学科の不断の教育改善に取り組む。 また、新しい社会・企業のニーズに柔軟に対応するとともに長崎県の発展に寄与できる人材育成の観点や大学間の連携等の視点を含めて、大学の今後のあり方について検討する。	①大学の今後のあり方を検討する組織を設置（令和５年度）する。企業・自治体へのアンケートや卒業生調査等の導入の検討を行い、アンケート等調査を試行（令和６年度）した上で、アンケート等調査を実施（令和７～９年度）し、大学の今後のあり方を令和10年度までに検討する。		≪達成水準の取組状況≫ ●達成水準① ◆各年度 of 取組の目安 <table> <tr> <th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr> <tr> <td>・検討する組織の設置及び調査等の導入の検討</td><td>・アンケート等調査の導入検討、試行</td><td>・調査、分析、あり方の検討</td><td>・調査、分析、あり方の検討</td><td>・調査、分析、あり方の検討</td><td>・今後の大学のあり方の方針の決定</td></tr> </table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 【期間評価（６年目終了時）】 （令和５年度実績） ・大学の今後のあり方を検討する組織を設置したほか、令和６年度に行う予定のアンケート調査の試行に向けて、学内や他大学で実施しているアンケート調査について情報収集を行った。 （令和６年度実績） ・新理事長のもと民間企業の視点を取り入れて、全教職員と個別面談を行うことで教育改革の点検や課題の確認をするとともに、他大学の視察や意見交換を行うことで大学の今後のあり方、経営戦略等について検討を進めた。 （令和７年度実績） ・法人幹部のミーティングを毎週行い、大学の今後のあり方に資する検討を重ね、「法人経営戦略本部」を設置することとし整備を行った。 ・卒業生調査（R7.4時点で卒業後3年を経過した卒業生対象としたアンケート調査）を実施した。 ・令和8年度以降、戦略本部を中心にアンケート調査等も活用しながら、大学のあり方を引き続き検討していく。 （令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 ≪中期計画の達成状況≫ 【途中評価（４年目終了時）】 <令和５～８年度の実績の概要> ・ <令和９～１０年度 of 取組予定・中期計画の達成見込> ・ 【期間評価（６年目終了時）】 <令和５～１０年度の実績の概要> ・	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・検討する組織の設置及び調査等の導入の検討	・アンケート等調査の導入検討、試行	・調査、分析、あり方の検討	・調査、分析、あり方の検討	・調査、分析、あり方の検討	・今後の大学のあり方の方針の決定		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度												
・検討する組織の設置及び調査等の導入の検討	・アンケート等調査の導入検討、試行	・調査、分析、あり方の検討	・調査、分析、あり方の検討	・調査、分析、あり方の検討	・今後の大学のあり方の方針の決定												

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標
2 人事の適正化に関する目標

中期目標	(16) 計画的な教員の採用及び教育研究活動の活性化 学生本位の教育の実現の観点から、学科のミッションを踏まえたカリキュラムツリーに沿った計画的な採用人事を行い教育研究活動を活性化させる。 また、採用にあたっては、全体の年齢構成や男女共同参画推進、実務の経験を有した教員の確保の観点に留意する。 (17) 事務組織の機能強化 事務組織の適正な編成と業務の効率化を進め、県派遣職員の見直しを含めた適切な人員配置に努める。 また、職員が自身の能力を最大限に発揮できるような職場環境を実現するため、資質向上による働き方改革の推進を進める。
------	---

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価※（ ）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																																											
(16) 計画的な教員の採用及び教育研究活動の活性化 【24】 学生本位の教育を実現するため、学科のミッションを踏まえたカリキュラムツリーに沿った計画的な採用人事を行う。 また、男女共同参画の観点から、管理職等への女性登用を推進する。教員の採用にあたっては、年齢、性別等に配慮する。	①実務家教員の活用を含めた計画的な採用活動を行う。教員の採用にあたっては、年齢や性別など、教員構成のバランスに配慮する。また、教員の採用、昇任基準について必要に応じて見直しを図る。 ②管理職等の指導的地位への女性登用を推進する。		≪達成水準の取組状況≫ ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>・ 計画的な採用活動の実施</td><td>・ 計画的な採用活動の実施</td><td>・ 計画的な採用活動の実施</td><td>・ 計画的な採用活動の実施</td><td>・ 計画的な採用活動の実施</td><td>・ 計画的な採用活動の実施</td></tr></table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 <table><tr><td></td></tr></table> 【期間評価（６年目終了時）】 <table><tr><td></td></tr></table> <table><tr><td>（令和５年度実績） ・実務家教員の採用を行うとともに、年齢や性別のバランスに配慮して、計画的な採用活動を実施した。</td></tr><tr><td>（令和６年度実績） ・実務家教員の採用も含めて計画的な採用活動を実施したが、一部教員の確保が困難な状況が続いているため、各学科における採用計画を改めて見直し整理していく。</td></tr><tr><td>（令和７年度実績） ・教員の確保が困難な状況が続いているため、人事調整委員会や各学科における採用計画を整理し、計画的な採用を行った。</td></tr><tr><td>（令和８年度実績） ・</td></tr><tr><td>（令和９年度実績） ・</td></tr><tr><td>（令和１０年度実績） ・</td></tr></table> ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 ●達成水準② ◆各年度の取組の目安 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>・管理職等への女性登用</td><td>・管理職等への女性登用</td><td>・管理職等への女性登用</td><td>・管理職等への女性登用</td><td>・管理職等への女性登用</td><td>・管理職等への女性登用</td></tr></table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 <table><tr><td></td></tr></table> 【期間評価（６年目終了時）】 <table><tr><td></td></tr></table> <table><tr><td>（令和５年度実績） ・副学長4名中3名を女性教員から登用し、役職ポストに占める女性の割合は27.3%となった。</td></tr><tr><td>（令和６年度実績） ・副学長4名中3名を女性教員から登用し、役職ポストに占める女性の割合は28.1%となった。</td></tr><tr><td>（令和７年度実績） ・副学長2名中1名を女性教員から登用し、役職ポストに占める女性の割合は17.2%となった。</td></tr><tr><td>（令和８年度実績） ・</td></tr><tr><td>（令和９年度実績） ・</td></tr><tr><td>（令和１０年度実績） ・</td></tr></table> ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 ≪中期計画の達成状況≫ 【途中評価（４年目終了時）】 <table><tr><td><令和５～８年度の実績の概要> ・</td></tr><tr><td><令和９～１０年度の取組予定・中期計画の達成見込> ・</td></tr></table> 【期間評価（６年目終了時）】 <table><tr><td><令和５～１０年度の実績の概要> ・</td></tr></table>	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・ 計画的な採用活動の実施	・ 計画的な採用活動の実施	・ 計画的な採用活動の実施	・ 計画的な採用活動の実施	・ 計画的な採用活動の実施	・ 計画的な採用活動の実施			（令和５年度実績） ・実務家教員の採用を行うとともに、年齢や性別のバランスに配慮して、計画的な採用活動を実施した。	（令和６年度実績） ・実務家教員の採用も含めて計画的な採用活動を実施したが、一部教員の確保が困難な状況が続いているため、各学科における採用計画を改めて見直し整理していく。	（令和７年度実績） ・教員の確保が困難な状況が続いているため、人事調整委員会や各学科における採用計画を整理し、計画的な採用を行った。	（令和８年度実績） ・	（令和９年度実績） ・	（令和１０年度実績） ・	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・管理職等への女性登用	・管理職等への女性登用	・管理職等への女性登用	・管理職等への女性登用	・管理職等への女性登用	・管理職等への女性登用			（令和５年度実績） ・副学長4名中3名を女性教員から登用し、役職ポストに占める女性の割合は27.3%となった。	（令和６年度実績） ・副学長4名中3名を女性教員から登用し、役職ポストに占める女性の割合は28.1%となった。	（令和７年度実績） ・副学長2名中1名を女性教員から登用し、役職ポストに占める女性の割合は17.2%となった。	（令和８年度実績） ・	（令和９年度実績） ・	（令和１０年度実績） ・	<令和５～８年度の実績の概要> ・	<令和９～１０年度の取組予定・中期計画の達成見込> ・	<令和５～１０年度の実績の概要> ・		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																											
・ 計画的な採用活動の実施	・ 計画的な採用活動の実施	・ 計画的な採用活動の実施	・ 計画的な採用活動の実施	・ 計画的な採用活動の実施	・ 計画的な採用活動の実施																																											
（令和５年度実績） ・実務家教員の採用を行うとともに、年齢や性別のバランスに配慮して、計画的な採用活動を実施した。																																																
（令和６年度実績） ・実務家教員の採用も含めて計画的な採用活動を実施したが、一部教員の確保が困難な状況が続いているため、各学科における採用計画を改めて見直し整理していく。																																																
（令和７年度実績） ・教員の確保が困難な状況が続いているため、人事調整委員会や各学科における採用計画を整理し、計画的な採用を行った。																																																
（令和８年度実績） ・																																																
（令和９年度実績） ・																																																
（令和１０年度実績） ・																																																
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																											
・管理職等への女性登用	・管理職等への女性登用	・管理職等への女性登用	・管理職等への女性登用	・管理職等への女性登用	・管理職等への女性登用																																											
（令和５年度実績） ・副学長4名中3名を女性教員から登用し、役職ポストに占める女性の割合は27.3%となった。																																																
（令和６年度実績） ・副学長4名中3名を女性教員から登用し、役職ポストに占める女性の割合は28.1%となった。																																																
（令和７年度実績） ・副学長2名中1名を女性教員から登用し、役職ポストに占める女性の割合は17.2%となった。																																																
（令和８年度実績） ・																																																
（令和９年度実績） ・																																																
（令和１０年度実績） ・																																																
<令和５～８年度の実績の概要> ・																																																
<令和９～１０年度の取組予定・中期計画の達成見込> ・																																																
<令和５～１０年度の実績の概要> ・																																																

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価※（ ）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等
(17) 事務組織の機能強化 【25】業務の見直し等を行い事務の効率化を進めるとともに、県派遣職員の配置について大学の業務運営に効果的に貢献できるポストの検証を行うなど、適切な人員配置に努める。 また、法人採用事務職員の資質向上を図るため、研修計画に基づいた研修を実施するとともに、意欲・能力を存分に発揮できるよう、働き方改革を推進するほか、事務職員を対象とした評価制度の妥当性を検証し、必要に応じて制度の見直しを図る。	①業務の見直し等を行い、事務の効率化を図る。業務内容、業務量の検証を行い、適正な人員配置の検討を行う。 <				

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

中期目標	(19) 厳格な自己点検・自己評価と外部評価の活用による法人運営の改善 中期目標及び中期計画の達成状況について、厳格な自己点検・自己評価を実施するとともに、法人評価委員会や認証評価機関による評価結果を法人運営の改善に結びつける。
------	---

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価※（ ）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等
(19) 厳格な自己点検・自己評価と外部評価の活用による法人運営の改善 【27】中期目標、中期計画の達成状況について、厳格な自己点検・評価を実施し、法人評価委員会や認証評価機関による評価を受ける。 また、法人評価委員会や認証評価機関による評価結果を法人運営の改善に結びつける。	①中期計画の取組について、毎年度進捗状況を管理し、計画達成に向けた取組を促すとともに、教育研究等の状況について点検し、優れている点や改善すべき点等を評価して、その結果を公表する。また、定められた時期に法人評価委員会の評価を受ける。 <				

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価※（）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）		ウエイト	評価委員会意見等
			（令和８年度実績） ・ （令和９年度実績） ・ （令和１０年度実績） ・ ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 << 中期計画の達成状況 >> 【途中評価（４年目終了時）】 <令和５～８年度の実績の概要> ・ <令和９～１０年度 of 取組予定・中期計画の達成見込> ・ 【期間評価（６年目終了時）】 <令和５～１０年度の実績の概要> ・			

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

中期目標	(20) 情報のわかりやすい発信、戦略的広報活動の展開 教育・研究、組織運営の状況、評価結果等の情報をわかりやすく発信し、広く県民に対する説明責任を果たす。 また、大学のブランド力強化のための取組や、大学の認知度を高めるための情報発信を推進する。
------	---

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価※（ ）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																																													
(20) 情報のわかりやすい発信、戦略的広報活動の展開 【28】法人の運営や自己点検・評価、教育及び研究に関する情報などについて、県民にわかりやすく積極的に公表する。 また、大学のブランド力強化や認知度向上のための広報活動を実施する。	①大学のブランド力強化や認知度向上のため、各種広報媒体を活用した効果的な広報活動を行うとともに、在学生の意見を取り入れるなど学生目線での広報活動に取り組む。 ・学生及び教員の地域との交流や社会貢献活動、研究活動などの大学ホームページへの掲載件数 110件（毎年度） ②大学ホームページの閲覧者に対するアンケート調査を実施し、必要に応じてその結果を踏まえた改善を行い、閲覧者の側に立った、わかりやすい魅力あるWebサイトの運営を行う。		≪達成水準の取組状況≫ ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table><tr><td>R 5 年度</td><td>R 6 年度</td><td>R 7 年度</td><td>R 8 年度</td><td>R 9 年度</td><td>R 1 0 年度</td></tr><tr><td>110件</td><td>110件</td><td>110件</td><td>110件</td><td>110件</td><td>110件</td></tr></table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 <table><tr><td>R 5 年度</td><td>R 6 年度</td><td>R 7 年度</td><td>R 8 年度</td><td>R 9 年度</td><td>R 1 0 年度</td></tr><tr><td>182件</td><td>190件</td><td>200件</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <補足（令和５年度）> 学生広報スタッフにも広報戦略委員会に参加してもらい意見を取り入れることで、学生目線のSNSやホームページ掲載を行った。 ※特筆すべき事項がある場合や達成できない場合に記載すること。 ●達成水準② ◆各年度の取組の目安 <table><tr><td>R 5 年度</td><td>R 6 年度</td><td>R 7 年度</td><td>R 8 年度</td><td>R 9 年度</td><td>R 1 0 年度</td></tr><tr><td>・アンケート調査の実施及び改善</td><td>・アンケート調査の実施及び改善</td><td>・アンケート調査の実施及び改善</td><td>・アンケート調査の実施及び改善</td><td>・アンケート調査の実施及び改善</td><td>・アンケート調査の実施及び改善</td></tr></table> ◆各年度の実績 【途中評価（４年目終了時）】 <table><tr><td>（令和５年度実績） ・大学ホームページ上で閲覧者向けのアンケート調査を年間を通して実施した。改善要望については各担当部局に共有、対応内容を検討し、令和５年度については「進路・就職状況」及び「研究成果報告」ページの改善を行った。</td><td>（令和６年度実績） ・大学ホームページ上で閲覧者向けのアンケート調査を年間を通して実施した。オープンキャンパスのパナーや申込フォームが見つけにくいという意見があったため、デザインの変更等を行い視認性の向上を図った。</td><td>（令和７年度実績） ・大学ホームページ上で閲覧者向けのアンケート調査を年間を通して実施した。ページの見つけやすさやキーワード検索などの意見がっており、令和８年度に実施する公式サイトのリニューアルの際に改善を予定している。</td><td>（令和８年度実績） ・</td><td>（令和９年度実績） ・</td><td>（令和１０年度実績） ・</td></tr></table> ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 ≪中期計画の達成状況≫ 【途中評価（４年目終了時）】 <table><tr><td><令和５～８年度の実績の概要> ・</td></tr><tr><td><令和９～１０年度の取組予定・中期計画の達成見込> ・</td></tr></table> 【期間評価（６年目終了時）】 <table><tr><td><令和５～１０年度の実績の概要> ・</td></tr></table>	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	110件	110件	110件	110件	110件	110件	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	182件	190件	200件				R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・アンケート調査の実施及び改善	・アンケート調査の実施及び改善	・アンケート調査の実施及び改善	・アンケート調査の実施及び改善	・アンケート調査の実施及び改善	・アンケート調査の実施及び改善	（令和５年度実績） ・大学ホームページ上で閲覧者向けのアンケート調査を年間を通して実施した。改善要望については各担当部局に共有、対応内容を検討し、令和５年度については「進路・就職状況」及び「研究成果報告」ページの改善を行った。	（令和６年度実績） ・大学ホームページ上で閲覧者向けのアンケート調査を年間を通して実施した。オープンキャンパスのパナーや申込フォームが見つけにくいという意見があったため、デザインの変更等を行い視認性の向上を図った。	（令和７年度実績） ・大学ホームページ上で閲覧者向けのアンケート調査を年間を通して実施した。ページの見つけやすさやキーワード検索などの意見がっており、令和８年度に実施する公式サイトのリニューアルの際に改善を予定している。	（令和８年度実績） ・	（令和９年度実績） ・	（令和１０年度実績） ・	<令和５～８年度の実績の概要> ・	<令和９～１０年度の取組予定・中期計画の達成見込> ・	<令和５～１０年度の実績の概要> ・		
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																													
110件	110件	110件	110件	110件	110件																																													
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																													
182件	190件	200件																																																
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																																													
・アンケート調査の実施及び改善	・アンケート調査の実施及び改善	・アンケート調査の実施及び改善	・アンケート調査の実施及び改善	・アンケート調査の実施及び改善	・アンケート調査の実施及び改善																																													
（令和５年度実績） ・大学ホームページ上で閲覧者向けのアンケート調査を年間を通して実施した。改善要望については各担当部局に共有、対応内容を検討し、令和５年度については「進路・就職状況」及び「研究成果報告」ページの改善を行った。	（令和６年度実績） ・大学ホームページ上で閲覧者向けのアンケート調査を年間を通して実施した。オープンキャンパスのパナーや申込フォームが見つけにくいという意見があったため、デザインの変更等を行い視認性の向上を図った。	（令和７年度実績） ・大学ホームページ上で閲覧者向けのアンケート調査を年間を通して実施した。ページの見つけやすさやキーワード検索などの意見がっており、令和８年度に実施する公式サイトのリニューアルの際に改善を予定している。	（令和８年度実績） ・	（令和９年度実績） ・	（令和１０年度実績） ・																																													
<令和５～８年度の実績の概要> ・																																																		
<令和９～１０年度の取組予定・中期計画の達成見込> ・																																																		
<令和５～１０年度の実績の概要> ・																																																		

V その他業務運営に関する目標

中期目標	(21) 教育研究施設等の計画的整備・管理 両キャンパスの良好な教育研究環境を確保するため、長期的な展望に立ち、計画的な維持・管理を行う。 また、佐世保校建替えの早期完成に向けて、安全や教育環境に配慮しながら着実な事業の推進を図る。
------	--

中期計画	達成水準	目標期間中の自己評価※（ ）内は途中評価結果（R5～R8）	判断理由（実施状況やその成果等）	ウエイト	評価委員会意見等																
(21) 教育研究施設等の計画的整備・管理 【29】良好な教育研究環境を維持するため、大学の施設や設備を計画的に整備するキャンパスマスタープラン（大学施設に係る個別施設計画）に沿い、適切な施設管理を行う。 佐世保校建替えにおいて、安全や教育環境に配慮しながら着実な事業の推進を図る。	①キャンパスマスタープラン（大学施設に係る個別施設計画）に沿い、計画的に施設の維持・補修を行う。 また「長崎県立大学佐世保校キャンパス整備基本構想」に基づき、佐世保校建替えの計画的推進を図り、第3期中期計画期間に完了した管理棟、食堂棟（1期）、武道館、地域交流棟に続き、新講義棟、食堂棟（2期）について整備を完了させる。		≪達成水準の取組状況≫ ●達成水準① ◆各年度の取組の目安 <table><tr><th>R 5 年度</th><th>R 6 年度</th><th>R 7 年度</th><th>R 8 年度</th><th>R 9 年度</th><th>R 1 0 年度</th></tr><tr><td>・ 計画的な施設の維持・補修 ・ 佐世保校建替えの計画的推進</td><td>・ 計画的な施設の維持・補修 ・ 佐世保校建替えの計画的推進</td><td>・ 計画的な施設の維持・補修 ・ 佐世保校建替えの計画的推進</td><td>・ 計画的な施設の維持・補修</td><td>・ 計画的な施設の維持・補修</td><td>・ 計画的な施設の維持・補修</td></tr></table> ◆各年度の実績【途中評価（4年目終了時）】 <table><tr><td>（令和5年度実績） ・ 両校のキャンパスマスタープランに基づき施設整備を計画的に行った。佐世保校キャンパス整備については大学院棟および講義棟（旧図書館）を解体し、新講義棟工事に着手した。</td></tr><tr><td>（令和6年度実績） ・ 両校のキャンパスマスタープランに基づき施設整備を計画的に行った。佐世保校キャンパス整備については、3月末に講義棟の工事が完了し、学生会館・本館（南）解体工事に着手した。</td></tr><tr><td>（令和7年度実績） ・ 両校のキャンパスマスタープランに基づき施設整備を計画的に行った。佐世保校キャンパス整備については、学生会館及び本館（南）の解体工事が完了し、食堂棟の工事に着手した。 なお、キャンパス整備については、当初令和7年度で完了する予定であったが、地域交流棟建設の際、地盤の状況が想定以上に悪く、工法の変更を余儀なくされたことや、全国的な資材不足、天候不良等の理由により、令和8年度まで延長することとなった。</td></tr><tr><td>（令和8年度実績） ・</td></tr><tr><td>（令和9年度実績） ・</td></tr><tr><td>（令和10年度実績） ・</td></tr></table> ※実績だけではなく、特筆すべき事項がある場合や達成できない場合も記載すること。 	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度	・ 計画的な施設の維持・補修 ・ 佐世保校建替えの計画的推進	・ 計画的な施設の維持・補修 ・ 佐世保校建替えの計画的推進	・ 計画的な施設の維持・補修 ・ 佐世保校建替えの計画的推進	・ 計画的な施設の維持・補修	・ 計画的な施設の維持・補修	・ 計画的な施設の維持・補修	（令和5年度実績） ・ 両校のキャンパスマスタープランに基づき施設整備を計画的に行った。佐世保校キャンパス整備については大学院棟および講義棟（旧図書館）を解体し、新講義棟工事に着手した。	（令和6年度実績） ・ 両校のキャンパスマスタープランに基づき施設整備を計画的に行った。佐世保校キャンパス整備については、3月末に講義棟の工事が完了し、学生会館・本館（南）解体工事に着手した。	（令和7年度実績） ・ 両校のキャンパスマスタープランに基づき施設整備を計画的に行った。佐世保校キャンパス整備については、学生会館及び本館（南）の解体工事が完了し、食堂棟の工事に着手した。 なお、キャンパス整備については、当初令和7年度で完了する予定であったが、地域交流棟建設の際、地盤の状況が想定以上に悪く、工法の変更を余儀なくされたことや、全国的な資材不足、天候不良等の理由により、令和8年度まで延長することとなった。	（令和8年度実績） ・	（令和9年度実績） ・	（令和10年度実績） ・
R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																
・ 計画的な施設の維持・補修 ・ 佐世保校建替えの計画的推進	・ 計画的な施設の維持・補修 ・ 佐世保校建替えの計画的推進	・ 計画的な施設の維持・補修 ・ 佐世保校建替えの計画的推進	・ 計画的な施設の維持・補修	・ 計画的な施設の維持・補修	・ 計画的な施設の維持・補修																
（令和5年度実績） ・ 両校のキャンパスマスタープランに基づき施設整備を計画的に行った。佐世保校キャンパス整備については大学院棟および講義棟（旧図書館）を解体し、新講義棟工事に着手した。																					
（令和6年度実績） ・ 両校のキャンパスマスタープランに基づき施設整備を計画的に行った。佐世保校キャンパス整備については、3月末に講義棟の工事が完了し、学生会館・本館（南）解体工事に着手した。																					
（令和7年度実績） ・ 両校のキャンパスマスタープランに基づき施設整備を計画的に行った。佐世保校キャンパス整備については、学生会館及び本館（南）の解体工事が完了し、食堂棟の工事に着手した。 なお、キャンパス整備については、当初令和7年度で完了する予定であったが、地域交流棟建設の際、地盤の状況が想定以上に悪く、工法の変更を余儀なくされたことや、全国的な資材不足、天候不良等の理由により、令和8年度まで延長することとなった。																					
（令和8年度実績） ・																					
（令和9年度実績） ・																					
（令和10年度実績） ・																					